



# Sun SPARC Enterprise™ M8000/M9000 サーバ プロダクトノート

---

XCP 1081 版

Sun Microsystems, Inc.  
www.sun.com

Part No. 820-7476-10  
2009 年 6 月, Revision A

Submit comments about this document at: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2009 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. および富士通株式会社 〒 211-8588 神奈川県川崎市中原区上小田中 4-1-1, Japan. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社は、それぞれ本書に記述されている製品および技術に関する知的所有権を所有または管理しています。これらの製品、技術、および本書は、著作権法、特許権などの知的所有権に関する法律および国際条約により保護されています。これらの製品、技術、および本書に対して Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社が有する知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品および技術は、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。富士通株式会社と Sun Microsystems, Inc. およびそのライセンサーの書面による事前の許可なく、このような製品または技術および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。本書の提供は、明示的であるか黙示的であるかを問わず、本製品またはそれに付随する技術に関するいかなる権利またはライセンスを付与するものでもありません。本書は、富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. の一部、あるいはそのいずれかの関連会社のいかなる種類の義務を含むものでも示すものでもありません。

本書および本書に記述されている製品および技術には、ソフトウェアおよびフォント技術を含む第三者の知的財産が含まれている場合があります。これらの知的財産は、著作権法により保護されているか、または提供者から富士通株式会社および/または Sun Microsystems, Inc. へライセンスが付与されているか、あるいはその両方です。

GPL または LGPL が適用されたソースコードの複製は、GPL または LGPL の規約に従い、該当する場合に、お客様からのお申し込みに応じて入手可能です。富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. にお問い合わせください。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに由来しています。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Java、Netra、Solaris、Sun Ray、Answerbook2、docs.sun.com、OpenBoot、および Sun Fire は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. または関連会社の商標または登録商標です。

富士通および富士通のロゴマークは、富士通株式会社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

SPARC64 は、Fujitsu Microelectronics, Inc. および富士通株式会社が SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の商標です。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、Sun Microsystems, Inc. が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。Sun Microsystems, Inc. は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザー



インタフェースの概念の研究開発における Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。Sun Microsystems, Inc. は Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装しているかまたは Sun の書面によるライセンス契約を満たす Sun Microsystems, Inc. のライセンス実施権者にも適用されます。

United States Government Rights - Commercial use. U.S. Government users are subject to the standard government user license agreements of Sun Microsystems, Inc. and Fujitsu Limited and the applicable provisions of the FAR and its supplements.

免責条項：本書または本書に記述されている製品や技術に関して富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社が行う保証は、製品または技術の提供に適用されるライセンス契約で明示的に規定されている保証に限ります。このような契約で明示的に規定された保証を除き、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. およびそのいずれかの関連会社は、製品、技術、または本書に関して、明示、黙示を問わず、いかなる種類の保証も行いません。これらの製品、技術、または本書は、現状のまま提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われないものとします。このような契約で明示的に規定されていないかぎり、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社は、いかなる法理論のもと第三者に対しても、その収益の損失、有用性またはデータに関する損失、あるいは業務の中断について、あるいは間接的損害、特別損害、付随的損害、または結果的損害について、そのような損害の可能性が示唆されていた場合であっても、適用される法律が許容する範囲内で、いかなる責任も負いません。

本書は、「現状のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われないものとします。



# 目次

---

プロダクトノート	1
<b>XCP 1081 に関する一般的な情報</b>	<b>3</b>
XCP 1081 の新機能	3
サポートされているファームウェアおよびオペレーティングシステム	4
Solaris パッチ情報	5
Solaris 10 10/08 のパッチ	5
Solaris 10 5/08 のパッチ	5
Solaris 10 8/07 のパッチ	6
Solaris 10 11/06 のパッチ	6
Emulex PCI Express (PCIe) カードのパッチ	7
QLogic PCIe カードのパッチ	7
Solaris パッチの入手方法	8
Update Manager GUI を使用したパッチの入手	8
smpatch CLI を使用したパッチの入手	10
XCP 1081 へのアップグレード	12
XSCF ファームウェアのリセット	12
OpenBoot PROM ファームウェアのアップデート	12
XCP 1050 より前のバージョンからのアップデート	12
XCP 1081 より前のバージョンからのアップデート	12

## 機能の問題と制限事項 13

SPARC64 VII プロセッサに関する制限事項 13

一般的な機能の問題と制限事項 13

## 追加情報および手順 16

システムへのログイン 16

XSCF Web ブラウザの問題 16

WAN ブートサーバからのブート 17

Sun Java Enterprise System 17

DVD ドライブと `cfgadm` 18

Sun Crypto Accelerator 6000 カード 18

U320 PCIe SCSI カード 18

システムメモリの識別 19

▼ システム内の縮退メモリの識別 19

▼ `showdevices` の使用によるメモリサイズの識別 19

▼ `prtdiag` の使用によるメモリサイズの識別 20

▼ ターゲットボードのカーネルメモリの識別 21

CPU アップグレード（当社技術員のみ） 22

新しいドメインに追加された SPARC64 VII CPU モジュール 22

既存のドメインに追加された SPARC64 VII プロセッサ 25

▼ 既存のドメインへの SPARC64 VII プロセッサ追加の準備 26

▼ SPARC64 VI で構成されているドメインへの SPARC64 VII CPU  
モジュールの追加 28

▼ 既存ドメインにおける SPARC64 VI CPU モジュールの  
SPARC64 VII へのアップグレード 29

## ハードウェアに関する情報 31

200V 電源を使用する場合の注意事項 31

ハードウェアに関する問題と回避方法 31

DVD ドライブと `cfgadm` 31

Sun Crypto Accelerator 6000 カード 32

ハードウェアドキュメントの変更予定 33

『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ設置計画マニュアル』の変更予定 35

『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ製品概要』の変更予定 36

『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバサービスマニュアル』の変更予定 37

保守ツール 37

保守用端末からのサーバの電源切断 37

DIMM 情報の見かた 38

PCI カードの取り付け 39

**ソフトウェアに関する情報 43**

XCP に関する問題と回避方法 43

Solaris OS に関する問題と回避方法 45

サポートされているリリースすべての Solaris OS に関する問題 45

Solaris 10 10/08 で修正された Solaris の問題 50

Solaris 10 5/08 で修正された Solaris の問題 53

Solaris 10 8/07 で修正された Solaris の問題 57

ドキュメントの変更予定 62





## はじめに

---

このプロダクトノートには、Sun SPARC Enterprise™ M8000/M9000 サーバのハードウェア、ソフトウェア、およびドキュメントに関する、ドキュメントセットの出版後に知られるようになった重要な最新情報が記載されています。

---

## 技術サポート

Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのドキュメントで取り上げられていない技術上の質問または問題がある場合は、当社技術員にお問い合わせください。

米国またはカナダでサポートを受ける場合、1-800-USA-4SUN (1-800-872-4786) にご連絡ください。その他の国でサポートを受ける場合は、次のウェブサイトを参照し、最も近い World Wide Solution Center を確認してください。

<http://www.sun.com/service/contacting/solution.html/>

---

## ソフトウェアリソース

Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバには、Solaris™ Operating System および Sun Java™ Enterprise System ソフトウェアがプレインストールされています。

## 追加情報

追加情報については、最新の『Solaris 10 Sun ハードウェアマニュアル』、および Solaris のドキュメントに付属のリリースノートを参照してください。さらに、このドキュメントへの補足情報があるかどうか、ドキュメントのウェブページを確認してください。最新の情報は次の URL で確認できます。

<http://www.sun.com/documentation/>

---

## ドキュメントへのアクセス

本体装置の設置、管理、および使用の手順は、Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのドキュメントセットに記載されています。ドキュメントセットは、次のウェブサイトでダウンロードできます。

<http://www.sun.com/documentation/>

---

**注** - このプロダクトノートに示す情報は、Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのドキュメントセットに記載されている情報よりも優先されます。

---

---

## ご意見をお寄せください

Sun では、ドキュメントの品質向上のために、お客様からのコメントやご意見をお待ちしています。ご意見がありましたら、次の URL にアクセスしてください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback/>

ご意見とともに、ドキュメントのタイトルと Part No. をお知らせください。

『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバプロダクトノート (XCP 1081 版)』  
(Part No.: 820-7476-10)

# プロダクトノート

---

このプロダクトノートには、Sun SPARC Enterprise™ M8000/M9000 サーバのハードウェア、ソフトウェア、およびドキュメントに関する重要な最新情報が記載されています。

---

## ソフトウェアリソース

Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバには、Solaris™ Operating System および Sun Java™ Enterprise System ソフトウェアがプレインストールされています。

## 最新の Solaris パッチ

Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバの必須 Solaris パッチは、システムにプレインストールされています。使用している Solaris OS のバージョンに必要なパッチの一覧については、「Solaris パッチ情報」(P.5) を参照してください。

## 追加情報

追加情報については、使用している Solaris OS のバージョンに対応するリリースノートと、次の URL の Big Admin ウェブサイトを参照してください。

<http://www.bigadmin.com>



# XCP 1081 に関する一般的な情報

---

ここでは、次の内容について説明します。

- 「XCP 1081 の新機能」 (P.3)
- 「サポートされているファームウェアおよびオペレーティングシステム」 (P.4)
- 「Solaris パッチ情報」 (P.5)
- 「Solaris パッチの入手方法」 (P.8)
- 「XCP 1081 へのアップグレード」 (P.12)
- 「機能の問題と制限事項」 (P.13)
- 「追加情報および手順」 (P.16)

---

## XCP 1081 の新機能

- 次に示す XSCF コマンドがアップデートされました。
  - `dumpconfig(8)`
  - `setsmtplib(8)`
  - `setsnmp(8)`
  - `showhardconf(8)`詳細については、各コマンドの `man page` を参照してください。
- 次に示す新しい XSCF コマンドがサポートされています。
  - `setloginlockout(8)`
  - `showloginlockout(8)`詳細については、各コマンドの `man page` を参照してください。

# サポートされているファームウェアおよびオペレーティングシステム

表 1 に、本リリースでサポートされているファームウェアおよびオペレーティングシステム (OS) のバージョンを示します。

表 1 ファームウェアおよびオペレーティングシステムのバージョン

ソフトウェアまたはファームウェア	バージョン
XSCF Control Package	1081
SPARC64™ VII プロセッサ: XCP 1071	
Capacity on Demand (COD) サポート: XCP 1050	
Solaris オペレーティングシステム	
SPARC64 VI プロセッサ: Solaris 10 11/06 以降 (必須パッチ適用済み)	
SPARC64 VII プロセッサ: Solaris 10 8/07 以降 (必須パッチ適用済み)*	

\* パッチについては、「Solaris パッチ情報」(P.5) を参照してください。  
最新パッチリビジョンがあるかどうか、<http://sunsolve.sun.com> を確認してください。

**注** - Solaris 10 8/07 インストール用 DVD では、SPARC64 VII プロセッサを搭載したドメインをブートできません。SPARC64 VII プロセッサを搭載したドメインをブートするには、Solaris 10 5/08 インストール用 DVD を使用します。

XSCF Web は、多くのウェブブラウザでサポートされます。このうち、XSCF Web の動作することが確認されているウェブブラウザは、表 2 のとおりです。

表 2 確認されたウェブブラウザのバージョン

ウェブブラウザ	バージョン
Firefox	2.0 および 3.0
Microsoft Internet Explorer	6.0 および 7.0

---

## Solaris パッチ情報

この項では、M8000/M9000 サーバの必須パッチを示します。

パッチ要件および特別なインストール手順については、必ずパッチの README を参照してください。

この項に示すパッチ ID は、インストールが必要なパッチの最小レベルを表しています。2 桁のサフィックスは、パッチの最小リビジョンレベルを表しています。

最新パッチリビジョンがあるかどうか、<http://sunsolve.sun.com> を確認してください。

パッチは、記載されている順序で適用します。パッチを含めた CPU のアップグレードの手順については、「[CPU アップグレード \(当社技術員のみ\)](#)」(P.22) を参照してください。

その他の Solaris OS の情報については、「[Solaris OS に関する問題と回避方法](#)」(P.45) を参照してください。

## Solaris 10 10/08 のパッチ

Solaris 10 10/08 OS 以降を実行する本体装置の場合、パッチは不要です。

## Solaris 10 5/08 のパッチ

Solaris 10 5/08 を実行する M8000/M9000 サーバすべてに、次のパッチが必要です。

■ 137137-09

Solaris 10 5/08 OS は、通常の操作中にパニックまたはトラップすることがあります (CR 6720261)。この問題を回避するには、次のパラメータをシステム仕様ファイル (/etc/system) に設定する必要があります。

```
set heaplp_use_stlb=0
```

その後、ドメインをリブートしてください。

## Solaris 10 8/07 のパッチ

次のパッチは、SPARC64 VII CPU を搭載した本体装置上の Solaris 10 8/07 OS に対してのみ必要です。次に示す順序でインストールします。

1. 119254-51 - SunOS 5.10: インストールおよびパッチユーティリティーパッチ
2. 125891-01 - SunOS 5.10: libc\_psr\_hwcap.so.1 パッチ
3. 127755-01 - SunOS 5.10: Fault Manager パッチ
4. 127127-11 - SunOS 5.10: カーネルパッチ

Solaris 10 8/07 OS (パッチ 127127-11) は、通常の操作中にパニックまたはトラップすることがあります (CR 6720261)。この問題を回避するには、次のパラメータをシステム仕様ファイル (/etc/system) に設定する必要があります。

```
set heaplp_use_stlb=0
```

その後、ドメインをリブートしてください。

## Solaris 10 11/06 のパッチ

Solaris 10 11/06 OS には、次のパッチが必要です。これらの必須パッチを適用しても、Solaris 10 11/06 では SPARC64 VII プロセッサはサポートされません。次に示す順序でパッチをインストールします。

1. 118833-36 – 次に進む前にドメインをリブートしてください。
2. 125100-10 – その他のパッチ要件の一覧については、パッチの README ファイルを参照してください。
3. 123839-07
4. 120068-03
5. 125424-01
6. 118918-24
7. 120222-21
8. 125127-01 – 次に進む前にドメインをリブートしてください。
9. 125670-02
10. 125166-05



## Emulex PCI Express( PCIe) カードのパッチ

次に示す Emulex カードは、パッチ 120222-26 で提供されるドライバが必要です。

- Sun StorageTek™ Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fiber Channel PCIe HBA (部品番号 SG-XPCIE2FC-EM4)
- Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fiber Channel PCIe HBA (部品番号 SG-XPCIE1FC-EM4)

## QLogic PCIe カードのパッチ

次に示す QLogic カードは、パッチ 125166-10 で提供されるドライバが必要です。

- Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fiber Channel PCIe HBA (部品番号 SG-XPCIE2FC-QF4)
- Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fiber Channel PCIe HBA (部品番号 SG-XPCIE1FC-QF4)

---

# Solaris パッチの入手方法

Sun<sup>sm</sup> Connection Update Manager を使用して、必要に応じてパッチを再インストールするか、または最新の必須パッチのセットでシステムをアップデートできます。Sun Connection Update Manager の詳細については、次の URL にある『*Sun Update Connection System Administration Guide*』を参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/updconn.sys>

または、次のウェブサイトアクセスしてください。

<http://wikis.sun.com/display/SunConnection/Update+Manager>

システムを登録し、Sun Connection Update Manager を使用して最新の Solaris OS パッチを入手するには、次の 2 つの方法があります。

- 「Update Manager GUI を使用したパッチの入手」 (P.8)
- 「smpatch CLI を使用したパッチの入手」 (P.10)

インストール情報と README ファイルは、パッチのダウンロードに含まれていません。



---

**注意** - Solaris 10 11/06 OS を実行する Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバの場合、Sun Connection Update Manager を使用する前に、パッチ 123003-03 および 124171-06 をシステムにインストールする必要があります。これらのパッチは、必要に応じて <http://sunsolve.sun.com/> からダウンロードできます。これ以降のバージョンの Solaris 10 OS を実行している本体装置の場合は、これらのパッチは不要です。

---

## Update Manager GUI を使用したパッチの入手

1. root として、次のいずれかの方法で Update Manager を起動します。

- [JDS Launch] メニューで  
[Launch]->[Applications]->[System Tools]->[Update Manager] の順にクリックします。
- 端末ウィンドウで  
/usr/bin/updatemanager と入力します。

2. 登録を完了します。

- すでに登録している場合は、[ステップ 3](#)に進みます。

- まだ登録していない場合は、Update Manager のインターフェースを使用して登録手続きに進みます。画面の指示に従います。

---

**注** - Sun Connection Update Manager GUI を使用して登録を完了できない場合は、コマンドラインインターフェース (CLI) を使用してパッチを入手してください。[「smpatch CLI を使用したパッチの入手」\(P.10\)](#) を参照してください。

---

**3. Update Manager の [Available] タブで、[Update Collection] ドロップダウンメニューを開き、[Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 Servers] を選択します。**

Update Manager は、必要なパッチがあるかどうか、システムを分析します。

**4. カーネルパッチが推奨される場合、パッチ ID の左側にあるボックスをクリックしてこのパッチを選択し、[Install] ボタンをクリックします。**

パッチは /var/sadm/spool にダウンロードされます。

---

**注** - カーネルパッチ (パッチ 118833-xx など) のインストールには、特別な手順が必要です (詳細についてはパッチの README を参照してください)。多くの場合、カーネルパッチはダウンロードのみの (対話型) パッチで、手動でのインストールが必要です。パッチセットにあるその他のパッチをインストールするには、カーネルパッチを先にインストールする必要があります。

---

**5. カーネルパッチの場合は、続けて次のように入力します。**

```
# cd /var/sadm/spool
# unzip patchid-xx.jar
```

**6. 次のファイルに示されているインストール手順を実行します。**

`/var/sadm/spool/patchid-xx/README.patchid-xx`

**7. `patchid-xx` をインストールした後、`shutdown` コマンドを使用してシステムを再起動します。**

`reboot` コマンドでは、再起動が必要なパッチのインストールは完了しません。Update Manager または `shutdown` コマンドを使用する必要があります。

```
# shutdown -i6
```

**8. 再び Update Manager を起動して、[ステップ 3](#) と同様にコレクションを選択します。**

**9. Update Manager で新しい分析が自動的に開始されない場合は、[Check for Updates] ボタンをクリックします。**

10. パッチの一覧で、パッチ ID の左側にあるボックスをオンにしてパッチを選択します。

11. [Install] ボタンをクリックします。

Update Manager は、パッチをダウンロードしてインストールします。

12. パッチのいずれかでシステムの再起動を求められた場合は、[ステップ 7](#)の手順に従います。

再起動を必要とするパッチをインストールした場合、Update Manager によってシステムを再起動できます。または、[ステップ 7](#)の説明どおり、shutdown コマンドを使用できます。再起動を必要とするパッチの場合、インストールを有効にするために再起動が必要です。

これでパッチのインストールは完了しました。

## smpatch CLI を使用したパッチの入手

1. ファイル `/usr/lib/breg/data/RegistrationProfile.properties` を `/tmp` ディレクトリにコピーします。
2. ユーザー名とパスワード、および必要に応じてネットワークプロキシとポートを追加するように、ファイル `/tmp/RegistrationProfile.properties` を編集します。

---

**注** - ユーザー名およびパスワードは、Sun オンラインアカウントです。アカウントを作成するには、<http://sunsolve.sun.com> にアクセスしてください。

---

3. システムを登録します。

```
# sconadm register -a -r /tmp/RegistrationProfile.properties
```

4. 適切なパッチを入手します。

```
# smpatch set patchpro.patchset=sem3k4k5k8k9k
```

5. カーネルパッチがあれば、インストールします。

カーネルパッチ (118833-xx など) は、Sun Connection Update Manager でダウンロードできます。

a. パッチを `/var/sadm/spool` ディレクトリにダウンロードします。

```
# smpatch update -i patchid-xx
```

**b. パッチを解凍します。**

```
# cd /var/sadm/spool
# unzip patchid-xx.jar
```

**c. ファイル /var/sadm/spool/patchid-xx/README.patchid-xx に示されているインストール手順に従って、パッチをインストールします。**

**6. システムを再起動します。**

reboot コマンドでは、再起動が必要なパッチのインストールは完了しません。Update Manager または shutdown コマンドを使用する必要があります。

```
# shutdown -i6
```

**7. パッチの一覧を表示します。**

```
# smpatch analyse
```

**8. パッチをダウンロードしてインストールします。**

```
# smpatch update
```

**9. パッチのいずれかでシステムの再起動が求められた場合は、[ステップ 6](#)を参照してください。**

再起動を必要とするパッチをインストールした場合、Update Manager によってシステムを再起動できます。または、[ステップ 6](#)の説明どおり、shutdown コマンドを使用できます。再起動を必要とするパッチの場合、インストールを有効にするために再起動が必要です。

これでパッチのインストールは完了しました。

---

## XCP 1081 へのアップグレード

XCP 1050 以降を XCP 1081 にアップグレードできます。手順については、『*Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド*』を参照してください。

## XSCF ファームウェアのリセット

XCP ファームウェアを 1081 以降にアップデートした後、`rebootxscf(8)` コマンドを使用して XSCF をリセットします。

## OpenBoot PROM ファームウェアのアップデート

ターゲットドメインの OpenBoot™ PROM (OBP) ファームウェアのアップデートを完了するには、ドメインを必ず再起動してください。ドメインは、アップデート完了後、できるだけ早く再起動する必要があります。

## XCP 1050 より前のバージョンからのアップデート

- XCP 1081 以降に直接アップデートすることはできません。XCP 1050 より前のバージョンを現在実行している場合は、まず中間バージョンである 1050 ~ 1061 (1061 を含む) の XCP にアップデートしてから、XCP 1081 以降にアップデートします。手順については、対象とする中間バージョンのプロダクトノートを参照してください。
- `admin` という名前のアカウントがある場合は、XCP 1050 以降にアップデートする前に、`deleteuser(8)` コマンドを使用してそれらのアカウントを削除します。`admin` アカウント名は、XCP 1050 以降で予約されています。

## XCP 1081 より前のバージョンからのアップデート

XCP 1081 以降への XCP アップデートの間に動作中であったドメインでは、Dynamic Reconfiguration (DR) を実行して SPARC64 VII プロセッサを追加または交換する場合、OpenBoot PROM ファームウェアをアップデートする必要があります。

OpenBoot PROM ファームウェアは、XCP をアップデートし、ドメインを再起動するとアップデートされます。このため、SPARC64 VII プロセッサを追加したか交換したかにかかわらず、ファームウェアを XCP 1081 以降にアップデートした後は、すべてのドメインを再起動します。

---

## 機能の問題と制限事項

この項では、本リリースにおける既知の問題について説明します。

### SPARC64 VII プロセッサに関する制限事項



---

**注意** - SPARC 64 VII プロセッサをシャーシに搭載する前に、XCP ファームウェアおよび Solaris OS のアップグレードを完了しておく必要があります。

---

### 一般的な機能の問題と制限事項



---

**注意** - Dynamic Reconfiguration (DR) とホットプラグの問題については、「[Solaris OS に関する問題と回避方法](#)」(P.45) を参照してください。

---

---

**注** - 分電盤のメインラインスイッチまたはサーキットブレーカーによってシステムの電源を再投入する場合、電源を切断した後に少なくとも 30 秒待ってから、電源を投入してください。

---

- 次の語はシステムに予約されているため、ユーザーアカウント名に使用することはできません。root、bin、daemon、adm、operator、nobody、sshd、rpc、rpcuser、ldap、apache、ntp、admin、および default。
- Service Processor (SP) を Network Time Protocol (NTP) サーバとして使用しないでください。独立した NTP サーバを使用することによって、SP とドメインで時刻の一貫性を保つ上で最適な信頼性を得られます。NTP の詳細については、Sun BluePrints™ のドキュメント『Using NTP to Control and Synchronize System Clocks』 (<http://www.sun.com/blueprints/0701/NTP.pdf>) を参照してください。
- 外部電源制御装置の外部電源制御インターフェースを使用するとき、次の通知信号はサポートされていません。
  - OS パニックまたは本体装置ハードウェア異常信号 (\*CPUN/RTNU)
  - 本体装置ハードウェア異常信号 (電源異常、温度異常、ファン異常) (\*ALARM)
- XSCF を使用し、XCP をインポートまたはファームウェアをアップデートする場合、ウェブブラウザ上に Web session ID error が表示されることがあります。また、Autologout 設定でタイムアウト時間を 30 分以上で指定すると、Internal Server Error が表示されることがあります。現在のブラウザを閉じてから、新しいブラウザを開いて、XSCF Web に接続し直してください。
- この XCP リリースの場合、XSCF ブラウザユーザーインターフェース (XSCF Web) は、PCI ボックス管理機能をサポートしていません。
- XSCF Web を使用するときは、ポップアップブロック設定を無効にし、ブラウザに検索ツールなどのプラグインが組み込まれている場合はプラグインを削除してください。
- XSCF-LAN はオートネゴシエーションに対応しています。XSCF-LAN と接続するネットワーク機器は、オートネゴシエーションモードに設定してください。この設定を行わず、XSCF-LAN と全二重固定で設定されているネットワーク機器を接続した場合、IEEE 802.3 の規約によって、XSCF-LAN は半二重モードで通信します。これにより、ネットワークの通信速度が遅くなったり、通信異常が発生したりする場合があります。
- ZFS ファイルシステムを使用しているドメインは、Dynamic Reconfiguration (DR) を使用できません。
- 1027A-Z/X1027A-Z, PCIe Dual 10-Gigabit Ethernet Fiber XFP カードの場合、次の制限事項があります。
  - 使用できるカードはドメインあたり最大 2 枚
  - これらのカードを PCI ボックスで使用しない
- 1 つの PCI ボックスで使用できるのは、最大 4 枚の 4447A-Z/X4447A-Z, PCIe Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP カード (PCIe I/O ボードあたり 2 枚) です。
- IOUA (ベース I/O カード) カードの最大数は、ドメインあたり 6 枚に制限されています。



- CD-RW/DVD-RW ドライブユニットとテープドライブユニットは、同時に使用しないでください。
  - 電源ケーブルは、二系統受電オプションなしの一系統受電サーバでは、冗長化されていません。すべての電源ケーブルは常時接続され、電源投入されていなければなりません (6557379)。
  - PCI ボックスを使用してホストサーバを外部ブートディスクドライブに接続することは、サポートされていません。
  - ターゲットドメインのOpenBoot™ PROMファームウェアのアップデートを完了するには、ドメインの電源を必ずオフ / オンしてください。
  - DR は、XSCF フェイルオーバーまたは XSCF リセットと同時に実行できません。DR 操作の進行中は、XSCF フェイルオーバーまたはリセットを開始しないでください。DR 操作が終了するのを待ってから、フェイルオーバーまたはリセットを開始します。フェイルオーバーまたはリセットを先に開始した場合は、フェイルオーバーまたはリセットが終了してから、DR 操作を開始します。
- 活性交換のために `addfru(8)` コマンドまたは `replacefru(8)` コマンドが使用された後、DR 操作が失敗することがあります (DR のために使用できないボードに関する誤ったメッセージが表示されます)。保守メニューで診断テストを実行せずに活性交換を行うと、この問題が発生します。この問題を回避するには、`addfru(8)` コマンドまたは `replacefru(8)` コマンドの保守メニューで診断を実行してください。復旧には、`testsb(8)` コマンドを実行するか、`deletefru(8)` コマンドで CPU / メモリボードユニットを削除してから `addfru(8)` コマンドを再実行してください。
- `setsnmp(8)` コマンドおよび `showsnmp(8)` コマンドが、許可の失敗をユーザーに通知しないことがあります。この問題が発生する場合、SNMP トラップホストが動作していることを確認し、正しいユーザー名を使用してコマンドを再実行してください。
  - 現時点では、消費電力監視機能 (`power` オペランドを指定した `showenvironment(8)` コマンド) はサポートされていません。

---

## 追加情報および手順

ここでは、本リリース時点でわかっている追加の問題および制限事項について説明します。

### システムへのログイン

標準的なデフォルトのログインのほかに、本体装置は、`admin` と呼ばれる一時的なログインが可能な状態で出荷されます。これにより、シリアルポートを介したリモート初期ログインが可能になります。本体装置の権限は `useradm` 限定であり、変更はできません。標準の UNIX ユーザー名 / パスワード認証または SSH 公開鍵認証を使用して一時 `admin` としてログインすることはできません。一時 `admin` アカウントにパスワードはなく、またパスワードをこのアカウント用に追加することもできません。

デフォルトのユーザーとしてログインした後や、一時 `admin` としてのログインにより有効なパスワードと権限を与えられた最初のユーザーが登録された後には、一時 `admin` アカウントは無効となります。

デフォルトのログインが使用される前に一時 `admin` としてログインできない場合には、`showuser -l` コマンドを実行することにより、他の誰かが上記の操作を実行していないか確認してください。

### XSCF Web ブラウザの問題

XSCF Web ブラウザインターフェースでは、出力が切り捨てられる場合があります。たとえば、`snapshot` 画面で SSH を選択したとき、`Host`、`Directory`、`ID`、`Password` の入力可能文字数が XSCF シェルでの入力可能文字数と一致しません。[Panic Log] ページで、パニックメッセージが最後の 50 行分しか表示されません (CR 6756052)。ブラウザインターフェースで、監査以外のログサイズ制限が最後の 2 桁しか表示されません (CR 6742502)。

出力全体を表示するには、XSCF シェルコマンドラインインターフェース (CLI) を使用してください。

## WAN ブート サーバからのブート

WAN ブートインストール方法を使用すると、HTTP を使用してワイドエリアネットワーク (WAN) 経由でソフトウェアのブートとインストールを行うことができます。WAN ブートサーバから M8000/M9000 サーバをブートできるようにするには、適切な実行可能ファイル wanboot をインストールし、OpenBoot™ バージョン 4.24 以降を使用して、必要なハードウェアがサポートされるようにする必要があります。

WAN ブートサーバの詳細については、使用している Solaris 10 OS のバージョンに対応する『Solaris 10 インストールガイド (ネットワークインストール)』を参照してください。Solaris 10 OS のドキュメントは次のウェブサイトにあります。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/solaris.10>

実行可能ファイル wanboot をアップグレードしないと、本体装置でパニックが発生し、次のようなメッセージが表示されます。

```
krtld: load_exec: fail to expand cpu/$CPU
krtld: error during initial load/link phase
panic - boot: exitto64 returned from client program
```

## Sun Java Enterprise System

Sun Java™ Enterprise System は、ソフトウェア投資を最大限に活用するソフトウェアサービスとライフサイクルサービスの包括的なセットです。概要およびドキュメントについては、次のウェブサイトにアクセスしてください。

<http://www.sun.com/service/javaes/index.xml>

---

**注** - Java Enterprise System 5 Update 1 をシステムにインストールすることによって発生する問題 (CR 6644798) に対処するために、Web Console SMF サービスを有効にする必要が生じる場合があります。

---

## ▼ Web Console SMF サービスの有効化

- 端末に `root` としてログインし、サービスを有効にします。

```
# svcadm enable svc:/system/webconsole:console
```

ソフトウェアの再読み込みが必要になった場合のダウンロードおよびインストール方法については、次のウェブサイトアクセスしてください。

<http://www.sun.com/software/preinstall>

ソフトウェアの最新コピーをダウンロードした場合は、使用している本体装置に必要なパッチがそのソフトウェアに含まれていないことがあります。ソフトウェアのインストール後、システムに必須パッチが存在するかどうかを確認し、インストールする手順については、「Solaris パッチ情報」(P.5) を参照してください。

## DVDドライブと `cfgadm`

Solaris の `cfgadm(1M)` コマンドを実行しても、M8000/M9000 システム上のドメインから DVD ドライブが構成解除されない場合があります。

Volume Management Daemon (`vol`d) を無効にしてから、`cfgadm(1M)` コマンドを使用して DVD ドライブを構成解除してください。`vol`d を無効にするには、コマンド `/etc/init.d/volmgt stop` を実行してデーモンを停止します。デバイスを減設または増設してから、コマンド `/etc/init.d/volmgt start` を実行してデーモンを再起動します。

## Sun Crypto Accelerator 6000 カード

Sun Crypto Accelerator (SCA) 6000 カードドライバの適切なバージョンを使用していない場合、SCA 6000 カードでホットプラグ操作を行うと、M8000/M9000 サーバでパニックまたはハングが発生するおそれがあります。SCA 6000 ドライバおよびファームウェアのバージョン 1.1 の場合、必要なブートストラップファームウェアのアップグレードを行うと、ホットプラグ操作が可能になります。SCA 6000 ドライバのバージョン 1.0 は、ホットプラグをサポートしていません。ホットプラグは使用しないでください。

## U320 PCIe SCSI カード

U320 PCIe SCSI カード (部品番号 375-3357-01/02) は、Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバの PCI カセットではサポートされていません。375-3357-03 以降を使用する必要があります。

# システムメモリの識別

## ▼ システム内の縮退メモリの識別

- XSCF にログインし、システムステータスを表示します。

```
XSCF> showstatus
```

次に、メモリボード #5 上の DIMM 番号 0A のメモリが縮退した例を示します。

```
XSCF> showstatus
      MBU_B Status:Normal;
      MEMB#5 Status:Normal;
*     MEM#0A Status:Degraded;
```

## ▼ showdevices の使用によるメモリサイズの識別

- XSCF にログインし、デバイスを表示します。

```
XSCF> showdevices -d domain_id
```

次の例は、showdevices -d コマンドの出力を示したもので、0 は domain\_id です。

```
XSCF> showdevices -d 0

...

Memory:
-----

```

DID	XSB	board mem MB	perm mem MB	base address	domain mem MB	target XSB	deleted mem MB	remaining mem MB
00	00-0	65536	2402	0x0000000000000000	131072			
00	01-0	16384	0	0x000003c000000000	131072			
00	01-1	16384	0	0x0000038000000000	131072			
00	01-2	16384	0	0x0000034000000000	131072			
00	01-3	16384	0	0x0000030000000000	131072			

```
...
```

この例は、システムボード 00-0 は 64 GB のメモリを搭載し、他のシステムボードは 16 GB のメモリを搭載していることを示しています。

## ▼ prtdiag の使用によるメモリサイズの識別

- ドメインで、システム診断情報を表示します。

```
# prtdiag
```

次の例は、prtdiag コマンドの出力を示したものです。

```
# prtdiag
...
===== Memory Configuration =====
Memory Available      Memory      DIMM      # of  Mirror Interleave
LSB  Group  Size      Status      Size  DIMMs Mode Factor
---  -
00   A      32768MB   okay        2048MB 16 no   8-way
00   B      32768MB   okay        2048MB 16 no   8-way
01   A      8192MB    okay        2048MB 4 no    2-way
01   B      8192MB    okay        2048MB 4 no    2-way
02   A      8192MB    okay        2048MB 4 no    2-way
02   B      8192MB    okay        2048MB 4 no    2-way
03   A      8192MB    okay        2048MB 4 no    2-way
03   B      8192MB    okay        2048MB 4 no    2-way
04   A      8192MB    okay        2048MB 4 no    2-way
04   B      8192MB    okay        2048MB 4 no    2-way
...

```

この例は、さまざまなメモリサイズを示しています。

## ▼ ターゲットボードのカーネルメモリの識別

- XSCF にログインし、デバイスを表示します。

```
XSCF> showdevices -d domain_id
```

次の例は、showdevices -d コマンドの出力を示したもので、0 は domain\_id です。

```
XSCF> showdevices -d 0
```

```
...
```

```
Memory:
```

```
-----
```

DID	XSB	board mem MB	perm mem MB	base address	domain mem MB	target XSB	deleted mem MB	remaining mem MB
00	00-0	65536	2402	0x0000000000000000	131072			
00	01-0	16384	0	0x000003c000000000	131072			
00	01-1	16384	0	0x0000038000000000	131072			
00	01-2	16384	0	0x0000034000000000	131072			
00	01-3	16384	0	0x0000030000000000	131072			

```
...
```

4 列目の perm mem MB のエントリの値がゼロ以外の場合、カーネルメモリが存在することを示します。

この例は、2402 MB のカーネルメモリが 00-0 にあることを示しています。

ボードにカーネルメモリがある場合に deleteboard コマンドまたは moveboard コマンドを実行すると、次の通知が表示されます。

```
System may be temporarily suspended, proceed? [y|n]:
```

## CPU アップグレード ( 当社技術員のみ)

---

**注** - SPARC64 VII プロセッサを本体装置に搭載する作業は、当社技術員が行う必要があります。

---

この項では、SPARC64 VII プロセッサを SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバに搭載する手順について説明します。

- 「新しいドメインに追加された SPARC64 VII CPU モジュール」 (P.22)
- 「既存のドメインに追加された SPARC64 VII プロセッサ」 (P.25)

---

**注** - ファームウェアを XCP 1081 にアップグレードする前に、「[XCP 1081 へのアップグレード](#)」 (P.12) を参照してください。

---



---

**注意** - SPARC 64 VII プロセッサをシャーシに搭載する前に、XCP ファームウェアおよび Solaris のアップグレードを完了しておく必要があります。

---

ドメイン内でプロセッサを組み合わせて構成する方法の詳細については、『*Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド*』の 2.2.13 項「ドメインモード設定」を参照してください。特に、「SPARC64 VI および SPARC64 VII プロセッサと CPU 動作モード」の項を参照してください。

### 新しいドメインに追加された SPARC64 VII CPU モジュール

#### ▼ 新しいドメインへの SPARC64 VII CPU モジュールの追加

---

**注** - Solaris 10 8/07 を新しいドメインにインストールする場合は、インストールサーバ上のパッチ適用済みのイメージからインストールする必要があります ([ステップ 20](#) を参照してください)。

---

1. `platadm` 権限を持つアカウントで XSCF にログインします。
2. 現在、ステータスが `Faulted` または `Deconfigured` と示されている FRU がないことを確認します。

```
XSCF> showstatus
```



3. すべてのドメインの電源を切断します。

```
XSCF> poweroff -a
```

4. すべてのドメインが停止したことを確認します。

```
XSCF> showlogs power
```

5. オペレーターパネルのキーの位置を Locked から Service に変更します。

6. XSCF スナップショットを収集し、アップグレード前のシステムステータスをアーカイブします。

アップグレード中に問題が発生した場合、システムステータスのスナップショットが役に立つことがあります。

```
XSCF> snapshot -t user@host:directory
```

7. XCP のバージョンを 1081 にアップデートします。

ファームウェアを XCP 1081 にアップデートする前に、「[XCP 1081 へのアップグレード](#)」(P.12) を参照してください。ファームウェアをアップデートする手順については、『*Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド*』を参照してください。

8. CPU モジュール (CPUM) を本体装置に搭載します。

手順については、『*Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバサービスマニュアル*』の第 12 章「CPU モジュールの交換」を参照してください。この手順には、本体装置全体の電源切断も含まれています。



---

**注意** - CPU モジュールを搭載した後、電源装置に電源ケーブルを再び接続する必要があります。

---

9. platadm 権限または fieldeng 権限を持つアカウントで、XSCF に再びログインします。

## 10. 新しく搭載した CPU モジュールの初期診断を実行します。

```
XSCF> testsb 01
```

次の例は、PSB#01 を追加した後のテストを示しています。

```
XSCF> testsb 01
Initial diagnosis is about to start.Continue?[y|n] : y
Initial diagnosis is executing.
Initial diagnosis has completed.
XSB Test Fault
-----
01 Passed Normal
```

## 11. 搭載した CPU モジュールが本体装置によって認識されていること、および異常を示すアスタリスク (\*) が表示されていないことを確認します。

```
XSCF> showhardconf -M
```

## 12. 異常が発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error -v
XSCF> showstatus
```

## 13. オペレーターパネルのキーの位置を Service から Locked に変更します。

## 14. 既存のドメインの電源を投入します。

```
XSCF> poweron -a
```

## 15. 追加した CPU モジュールについて、次の設定を行います。

- 追加した CPU モジュールの XSB を設定
- ドメインを構成
- ドメインの CPU 動作モードを設定

これらの設定については、『*Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド*』の第 2 章「XSCF 使用のためのセットアップ」を参照してください。

## 16. setdomainmode(8) コマンドを使用して、ドメインの自動ブート機能を無効にします。

詳細については、『*Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド*』および setdomainmode(8) の man page を参照してください。

17. 新しいドメインの電源を投入します。

```
XSCF> poweron -d domain_id
```

18. ターゲットドメインが正常に起動したことを確認します。

```
XSCF> showlogs power
```

19. 異常が発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error -v  
XSCF> showstatus
```

20. SPARC64 VII プロセッサをサポートするバージョンの Solaris OS をインストールします。

サポートされているソフトウェアのバージョンについては、「[サポートされているファームウェアおよびオペレーティングシステム](#)」(P.4) を参照してください。

Solaris 10 8/07 を新しいドメインにインストールする場合は、インストールサーバ上のパッチ適用済みのイメージからインストールする必要があります。

SPARC64 VII プロセッサで Solaris 10 8/07 を実行するために必要なパッチについては、「[Solaris パッチ情報](#)」(P.5) を参照してください。ネットワークインストールについては、『*Solaris 10 8/07 インストールガイド (ネットワークインストール)*』(Part No. 820-0177) を参照してください。

21. `setdomainmode(8)` コマンドを使用して、ドメインの自動ブート機能を有効にします。

自動ブート機能は、ドメインのリブートによって適用されます。詳細については、『*Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド*』および `setdomainmode(8)` の man page を参照してください。

## 既存のドメインに追加された SPARC64 VII プロセッサ

SPARC64 VII プロセッサを既存のドメインに追加する手順には、2つの段階があります。まず、システムを準備します（「[既存のドメインへの SPARC64 VII プロセッサ追加の準備](#)」(P.26) を参照）。その後で、次のいずれか該当する搭載シナリオの手順を使用して、プロセッサを搭載します。

- 「[SPARC64 VIで構成されているドメインへの SPARC64 VII CPUモジュールの追加](#)」(P.28)
- 「[既存ドメインにおける SPARC64 VI CPUモジュールの SPARC64 VII へのアップグレード](#)」(P.29)

## ▼ 既存のドメインへの SPARC64 VII プロセッサ追加の準備

1. 必要に応じて、SPARC64 VII プロセッサをサポートするバージョンの Solaris OS にアップグレードします。

サポートされているソフトウェアのバージョンについては、「サポートされているファームウェアおよびオペレーティングシステム」(P.4) を参照してください。必須パッチがあれば適用します。

2. platadm 権限を持つアカウントで XSCF にログインします。
3. 現在、ステータスが Faulted または Deconfigured と示されている FRU がないことを確認します。

```
XSCF> showstatus
```

4. すべてのドメインの電源を切断します。

```
XSCF> poweroff -a
```

5. ドメインの電源が切断されていることを確認します。

```
XSCF> showlogs power
```

6. オペレーターパネルのキーの位置を Locked から Service に変更します。
7. XSCF スナップショットを収集し、アップグレード前のシステムステータスをアーカイブします。

アップグレード中に問題が発生した場合、システムステータスのスナップショットが役に立つことがあります。

```
XSCF> snapshot -t user@host:directory
```

8. XCP のバージョンを 1081 にアップデートします。

ファームウェアを XCP 1081 にアップデートする前に、「XCP 1081 へのアップグレード」(P.12) を参照してください。ファームウェアをアップデートする手順については、『Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。
9. platadm 権限または fieldeng 権限を持つアカウントで、XSCF に再びログインします。

10. すべてのドメインの電源を投入し、OpenBoot PROM ファームウェアを適用します。

```
XSCF> poweron -a
```

ok プロンプトが表示されます。Solaris OS を起動する必要はありません。

11. アップデートされた OpenBoot PROM バージョンを確認します。

```
XSCF> version -c cmu -v
```

XCP 1081 の場合、OpenBoot PROM のバージョンは 02.08.0000 です。出力は次のようになります。

```
XSCF> version -c cmu -v
DomainID 0: 02.08.0000
DomainID 1: 02.08.0000
DomainID 2: 02.08.0000
DomainID 3: 02.08.0000
...
DomainID 15: 02.02.0000

XSB#00-0: 02.08.0000 (Current)      02.03.0000 (Reserve)
XSB#00-1: 02.08.0000 (Current)      02.03.0000 (Reserve)
XSB#00-2: 02.08.0000 (Current)      02.03.0000 (Reserve)
XSB#00-3: 02.08.0000 (Current)      02.03.0000 (Reserve)
XSB#01-0: 02.08.0000 (Current)      02.03.0000 (Reserve)
XSB#01-1: 02.08.0000 (Current)      02.03.0000 (Reserve)
XSB#01-2: 02.08.0000 (Current)      02.03.0000 (Reserve)
XSB#01-3: 02.08.0000 (Current)      02.03.0000 (Reserve)
...
```

12. すべてのドメインの電源を切断します。

```
XSCF> poweroff -a
```

13. 適切なインストール手順を続行します。

- SPARC64 VII 搭載の新しい CPU モジュールを、SPARC64 VI プロセッサで構成されているドメインに追加する場合、「[SPARC64 VI で構成されているドメインへの SPARC64 VII CPU モジュールの追加](#)」(P.28) の手順を続行します。
- 既存ドメインで、既存の SPARC64 VI CPU モジュールを SPARC64 VII プロセッサにアップグレードする場合、「[既存ドメインにおける SPARC64 VI CPU モジュールの SPARC64 VII へのアップグレード](#)」(P.29) の手順を続行します。

## ▼ SPARC64 VI で構成されているドメインへの SPARC64 VII CPU モジュールの追加

この手順の前に、「既存のドメインへの SPARC64 VII プロセッサ追加の準備」(P.26) の手順を完了しておく必要があります。まだの場合は、完了してからこちらの手順に進んでください。

### 1. CPUM を本体装置に搭載します。

手順については、『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバサービスマニュアル』の「CPU モジュールの交換」の章を参照してください。この手順には、本体装置全体の電源切断も含まれています。



---

**注意** - CPU モジュールを搭載した後、電源装置に電源ケーブルを再び接続する必要があります。

---

### 2. platadm 権限または fieldeng 権限を持つアカウントで、XSCF に再びログインします。

### 3. 新しく搭載した CPU モジュールの初期診断を実行します。

```
XSCF> testsb 01
```

次の例は、PSB#01 を追加した後のテストを示しています。

```
XSCF> testsb 01
Initial diagnosis is about to start.Continue?[y|n] : y
Initial diagnosis is executing.
Initial diagnosis has completed.
XSB Test Fault
-----
01 Passed Normal
```

### 4. 搭載した CPU モジュールが本体装置によって認識されていること、および異常を示すアスタリスク (\*) が表示されていないことを確認します。

```
XSCF> showhardconf -M
```

### 5. 異常が発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error -v
XSCF> showstatus
```

### 6. オペレーターパネルのキーの位置を Service から Locked に変更します。

## 7. CPU モジュールについて、次の設定を行います。

- XSB を設定
- LSB を設定
- XSB をドメインに追加
- ドメインの CPU 動作モードを設定

これらの設定については、『*Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド*』の第 2 章「XSCF 使用のためのセットアップ」を参照してください。

## 8. すべてのドメインの電源を投入します。

```
XSCF> poweron -a
```

## 9. すべてのドメインが正常に起動したことを確認します。

```
XSCF> showlogs power
```

## 10. 異常が発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error -v  
XSCF> showstatus
```

## ▼ 既存ドメインにおける SPARC64 VI CPU モジュールの SPARC64 VII へのアップグレード

この手順の前に、「[既存のドメインへの SPARC64 VII プロセッサ追加の準備](#)」(P.26) の手順を完了しておく必要があります。まだの場合は、完了してからこちらの手順に進んでください。

### 1. SPARC64 VI CPU モジュールを SPARC64 VII CPU モジュールと交換します。

手順については、『*Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバサービスマニュアル*』の第 12 章「CPU モジュールの交換」を参照してください。この手順には、本体装置全体の電源切断も含まれています。



---

**注意** - CPU モジュールを搭載した後、電源装置に電源ケーブルを再び接続する必要があります。

---

### 2. platadm 権限または fieldeng 権限を持つアカウントで、XSCF に再びログインします。

### 3. 新しく搭載した CPU モジュールの初期診断を実行します。

```
XSCF> testsb 01
```

次の例は、SPARC Enterprise M8000 サーバに PSB#01 を追加した後のテストを示しています。

```
XSCF> testsb 01
Initial diagnosis is about to start.Continue?[y|n] : y
Initial diagnosis is executing.
Initial diagnosis has completed.
XSB Test Fault
-----
01 Passed Normal
```

### 4. 搭載した CPU モジュールが本体装置によって認識されていること、および異常を示すアスタリスク (\*) が表示されていないことを確認します。

```
XSCF> showhardconf -M
```

### 5. 異常が発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error -v
XSCF> showstatus
```

### 6. オペレーターパネルのキーの位置を Service から Locked に変更します。

### 7. ドメインの CPU 動作モードを設定し、確認します。

詳細については、『*Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド*』の第 2 章「XSCF 使用のためのセットアップ」を参照してください。

### 8. すべてのドメインの電源を投入します。

```
XSCF> poweron -a
```

### 9. ターゲットドメインが正常に起動したことを確認します。

```
XSCF> showlogs power
```

### 10. 異常が発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error -v
XSCF> showstatus
```



# ハードウェアに関する情報

---

この項では、SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのハードウェアに関する特記事項および問題点について説明します。

- 「200V 電源を使用する場合の注意事項」 (P.31)
- 「ハードウェアに関する問題と回避方法」 (P.31)
- 「ハードウェアドキュメントの変更予定」 (P.33)

---

## 200V 電源を使用する場合の注意事項

B タイプのプラグを持つ本体装置の場合、30A の過電流保護デバイスが本体装置外にあることを確認します。このデバイスがない場合は、ノーヒューズブレーカー (NFB) またはヒューズなど、30A の過電流保護を外部で実施できる手段を準備します。B タイププラグとは、平行 2 極接地極付プラグ以外の NEMA L6-30、L6-20、L6-15、および L5-15などを指します。

---

## ハードウェアに関する問題と回避方法

### DVD ドライブと `cfgadm`

Solaris の `cfgadm(1M)` コマンドを実行しても、SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ上のドメインから DVD ドライブが構成解除されない場合があります。

Volume Management Daemon (`vold`) を無効にしてから、`cfgadm(1M)` コマンドを使用して DVD ドライブを構成解除してください。`vold` を無効にするには、コマンド `/etc/init.d/volmgt stop` を実行してデーモンを停止します。デバイスを減設または増設してから、コマンド `/etc/init.d/volmgt start` を実行してデーモンを再起動します。

## Sun Crypto Accelerator 6000 カード

Sun Crypto Accelerator (SCA) 6000 カードドライバの適切なバージョンを使用していない場合、SCA 6000 カードでホットプラグ操作を行うと、SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバでパニックまたはハングが発生するおそれがあります。SCA6000 ドライバおよびファームウェアのバージョン 1.1 の場合、必要なブートストラップファームウェアのアップグレードを行うと、ホットプラグ操作が可能になります。SCA6000 ドライバのバージョン 1.0 は、ホットプラグをサポートしていません。ホットプラグは使用しないでください。

# ハードウェアドキュメントの変更予定

この項では、ドキュメントセットの出版後に知られるようになったハードウェア最新情報および変更内容を示します。

表3に、ドキュメントの変更予定を示します。

表3 ハードウェアドキュメントの変更予定

タイトル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ設置計画マニュアル	3-11	表 3-8 「諸元（単相受電時の電源入力接続仕様）」 ここでは日本向け SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのプラグ形状が「NEMA L6-30R」と記載されていますが、これは「NEMA L6-30P」に修正する必要があります。 次の注記を追加します。 <b>注 - B</b> タイプのプラグを持つ本体装置の場合、30A の過電流保護デバイスが本体装置外にあることを確認します。このデバイスがない場合は、ノーヒューズブレーカー（NFB）またはヒューズなど、30A の過電流保護を外部で実施できる手段を準備します。B タイププラグとは、平行 2 極接地極付プラグ以外の NEMA L6-30、L6-20、L6-15、および L5-15などを指します。
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバインストールレーションガイド	2-3	表 2-3 「入力電源の接続仕様」 次の注記を追加します。 <b>注 - B</b> タイプのプラグを持つ本体装置の場合、30A の過電流保護デバイスが本体装置外にあることを確認します。このデバイスがない場合は、ノーヒューズブレーカー（NFB）またはヒューズなどの手段を使用して、30A の過電流保護を外部で実施します。B タイププラグとは、平行 2 極接地極付プラグ以外の NEMA L6-30、L6-20、L6-15、および L5-15などを指します。
	3-27 3-31	3.4.3 「SPARC Enterprise M9000 サーバ基本筐体と拡張筐体間のケーブル接続」 次の注意を追加します。 <b>注意 -</b> トルクドライバーを入手できない場合は、手でロックケーブルのコネクターを固定します。通常のドライバーを使用して固定しないでください。

表 3 ハードウェアドキュメントの変更予定

タイトル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバサービスマニュアル	6-21	「シングルランク」は「1 ランク」、「デュアルランク」は「2 ランク」に読み替えてください。
	16-5	次の注意を追加します。
	17-5	<b>注意</b> - トルクドライバーを入手できない場合は、手でクロックケーブルのコネクターを固定します。通常のドライバーを使用して固定しないでください。
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバサービスマニュアル	C-2	C.4 「SAS ポート」を削除します。

# 『 SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ設置計画マニュアル』の変更予定

次に示す情報は、『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ設置計画マニュアル』に記載の情報よりも優先されます。

次の表は、3.1.1「周囲環境条件」の表 3-1「諸元（周囲環境条件）」の変更後の内容を示します。

**表 4** 周囲環境条件

	動作時	非動作時	最適条件
周囲温度	5°C ~ 35°C (41°F ~ 95°F)	非梱包時： 0°C ~ 50°C (32°F ~ 122°F) 梱包時： -20°C ~ 60°C (-4°F ~ 140°F)	21°C ~ 23°C (70°F ~ 74°F)
相対湿度*	20 ~ 80% 相対湿度	~ 93% 相対湿度	45 ~ 50% 相対湿度
高度制限\ 温度条件	3,000 m (10,000 ft)	12,000 m (40,000 ft)	
	5 ~ 32 (41 ~ 89.6) : 海拔 0 ~ 1500 m (4921 ft) 未満設置時		
	5 ~ 30 (41 ~ 86) : 海拔 1500 m (4921 ft) ~ 2000 m (6562 ft) 未満設置時		
	5 ~ 28 (41 ~ 82.4) : 海拔 2000 m (6562 ft) ~ 2500 m (8202 ft) 未満設置時		
	5 ~ 26 (41 ~ 78.8) : 海拔 2500 m (8202 ft) ~ 3000 m (9843 ft) 以下設置時		

\* 温湿度条件によらず、結露しないことを前提にしています。

\ 高度はいずれも海拔で示しています。

# 『 SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ製品概要』の変更予定

次に示す情報は、『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ製品概要』に記載の情報よりも優先されます。

次の表は、1.2.3「環境条件」の表 1-4「環境条件」の変更後の内容を示します。

表 5 環境条件

	動作時	非動作時	最適条件
周囲 温度	5°C ~ 35°C (41°F ~ 95°F)	非梱包時： 0°C ~ 50°C (32°F ~ 122°F) 梱包時： -20°C ~ 60°C (-4°F ~ 140°F)	21°C ~ 23°C (70°F ~ 74°F)
相対 湿度*	20 ~ 80% 相対湿度	~ 93% 相対湿度	45 ~ 50% 相対湿度
高度 制限\	3,000 m (10,000 ft)	12,000 m (40,000 ft)	
温度 条件	5 ~ 32 (41 ~ 89.6) : 海拔 0 ~ 1500 m (4921 ft) 未満設置時  5 ~ 30 (41 ~ 86) : 海拔 1500 m (4921 ft) ~ 2000 m (6562 ft) 未満設 置時  5 ~ 28 (41 ~ 82.4) : 海拔 2000 m (6562 ft) ~ 2500 m (8202 ft) 未満設 置時  5 ~ 26 (41 ~ 78.8) : 海拔 2500 m (8202 ft) ~ 3000 m (9843 ft) 以下設 置時		

\* 温湿度条件によらず、結露しないことを前提にしています。

\ 高度はいずれも海拔で示しています。

# 『 SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバサービス スマニュアル』の変更予定

次に示す情報は、『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバサービススマニュアル』に記載の情報よりも優先されます。

## 保守ツール

次の表は、1-10 ページの 1.4 「保守に必要なツール」にある表 1-1 「保守ツール」の変更後の内容を示します。

表 1-1 保守ツール

項	品名	用途
1	トルクレンチ (8.24 Nm (84 kgf cm))	拡張筐体と電源筐体の連結に使用
2	10mm (M6) および 13mm (M8) のトルクレンチ用ソケット (8.24 Nm (84 kgf cm))	拡張筐体と電源筐体の連結に使用
3	トルクレンチ用エクステンション	
4	トルクドライバー (0.2 Nm (2.0 kgf cm))	SPARC Enterprise M9000 サーバの拡張筐体が搭載されている場合、筐体間のクロックケーブルの固定に使用
5	マイナスビット (0.2 Nm (1.0 kgf cm))	SPARC Enterprise M9000 サーバの拡張筐体が搭載されている場合、筐体間のクロックケーブルの固定に使用
6	リストストラップ	静電気除去用
7	導電マット	静電気除去用
8	CPU モジュール交換治具	CPU モジュール着脱 (装置添付品)
9	SunVTS	テストプログラム

## 保守用端末からのサーバの電源切断

次に、4.4.1 「サーバの電源切断」の「保守用端末から」の変更後の内容を示します。

1. サーバを停止することをユーザーに通知します。
2. 必要に応じて、システムファイルとデータをバックアップします。
3. XSCF シェルにログインし、`poweroff` コマンドを入力します。

```
XSCF> poweroff -a
```

poweroff コマンドを使用すると、次のアクティビティが実行されます。

- Solaris OS がクリーンにシャットダウンされる。
- サーバの電源が切断されて、サーバがスタンバイモードになる (XSCF ユニットおよび 1 個のファンは電源が投入されたままになります)。

コマンドの詳細については、ご使用のサーバの XSCF リファレンスマニュアルを参照してください。

#### 4. AC セクションのすべてのメインラインスイッチを切断します。



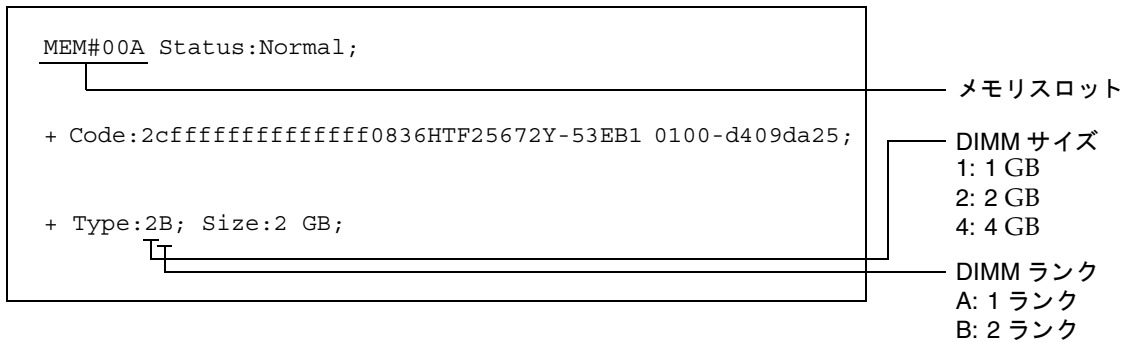
**注意** - 電源コードを抜かないと電氣的障害が発生する可能性があります。サーバの電源を完全に切断するには、すべての電源コードを抜く必要があります。

## DIMM 情報の見かた

次の図は、6-20 ページの 6.4.2.1 「DIMM 情報の確認」にある図 6-20 「DIMM 情報の見かた」の変更後の内容を示します。正しい図は次のとおりです。

図 6-20 は、Type フィールドに表示される DIMM 情報の見かたを示します。

図 6-20 DIMM 情報の例





## PCIカードの取り付け

次に、第13章「PCIスロット関連デバイスの交換」の13-6ページに記載されている13.2「活性交換」の手順9の変更後の内容を示します。

### 9. 交換用PCIカードをPCIカセットに取り付けます（導電マットの上で作業します）。

図13-6は、カード位置合わせポストおよびカード位置合わせタブを示します。

図13-6 カード位置合わせポストおよびカード位置合わせタブ

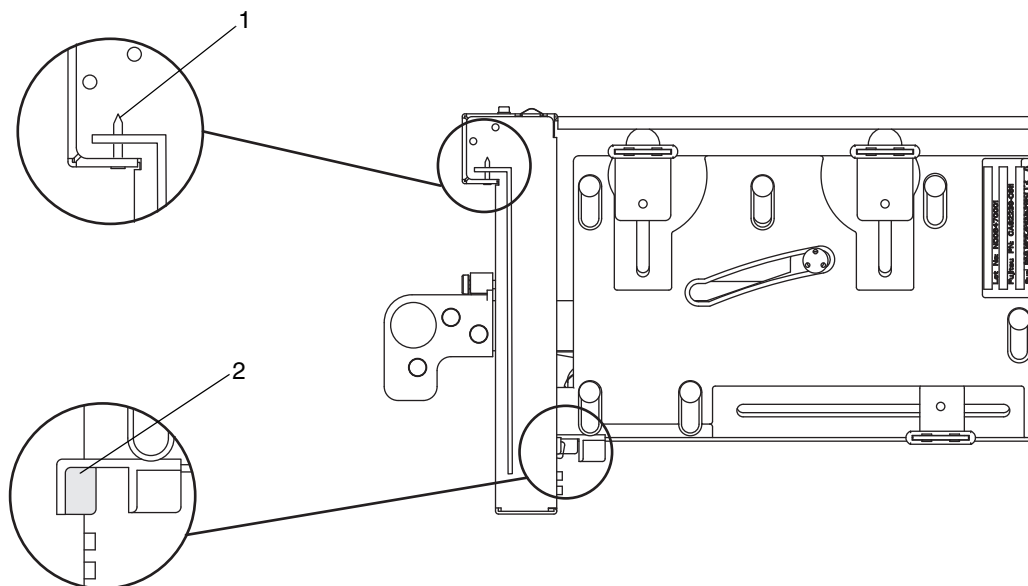


表13-2 カード位置合わせポストおよびカード位置合わせタブ

アイテム	説明
1	カード位置合わせポスト
2	カード位置合わせタブ

ポスト（図13-6のアイテム1）は、PCIカードのブラケットの切欠きに収まります。切欠きにポストが収まらない場合、カードのブラケットが曲がり、カードがPCIカセット上で傾いたまま固定されることがあります。傾いた状態では、カードがIOUのソケットと電氣的に正しく接触しません。

タブ（図 13-6 のアイテム 2）は、PCI カード下部の切欠きに収まります。このタブは、PCI カセットにカードを取り付ける際のカードの位置合わせに役立ちます（一部の種類のカードでは、この切欠きがない場合があります）。

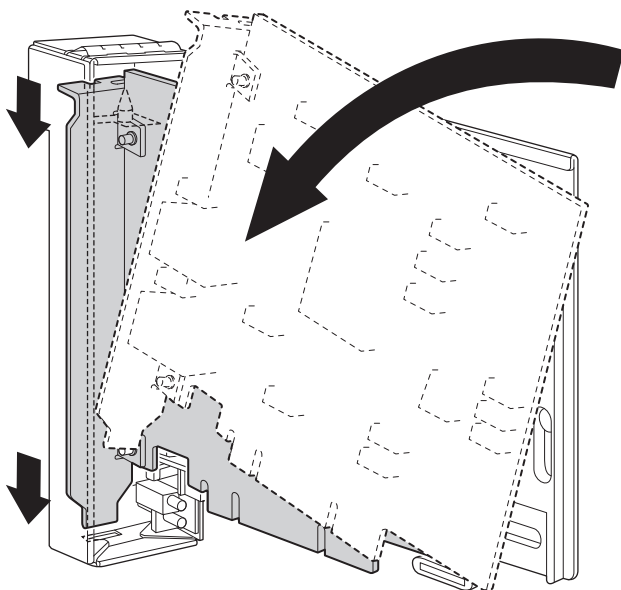
---

**注** - タブは、PCI カセットを IOU から取り外す場合に、カードの前面をカードコネクタから持ち上げる役割を果たします。

---

- a. PCI カードの金具下部の突起部を PCI カセットの前面板下部の穴に差し込むように、一方 PCI カードの金具上部の長円切欠き部に PCI カセットのピンが入るように、PCI カードを矢印の方向に動かしながら PCI カセットにはめ込みます。

図 13-7 PCI カードの取り付け



- b. PCI カード基盤の切欠き部が PCI カセットのカード位置合わせタブに突き当たるまで押し付けます。

---

**注** - PCI カードをカード位置合わせタブにあわせて固定するときは、レバーを枠より 2 cm 程度引いて行ってください。

---

- c. PCI カードをカセット下側のつめの中央に合わせ、カセット上側のつめの中央で PCI カードを押し付けて、図 13-8 の順にねじを締め、カードを正しい位置に固定します。

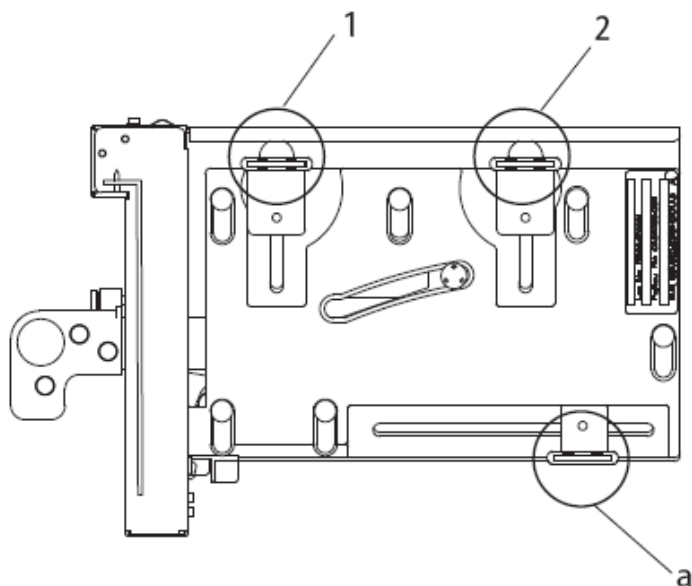
---

**注** - PCI カードが正しく装着されるように、PCI カードの基盤がつめの中央にあることを確認し、しっかりと固定する必要があります（図 13-9 を参照してください）。

PCI カード下部のねじの位置をずらす場合、まず、カードを下側のつめ（図 13-8 の a 部分）に固定します。次に、図 13-8 の順にねじを締め、カードを正しい位置に固定します。

---

図 13-8 PCI カードの固定順序

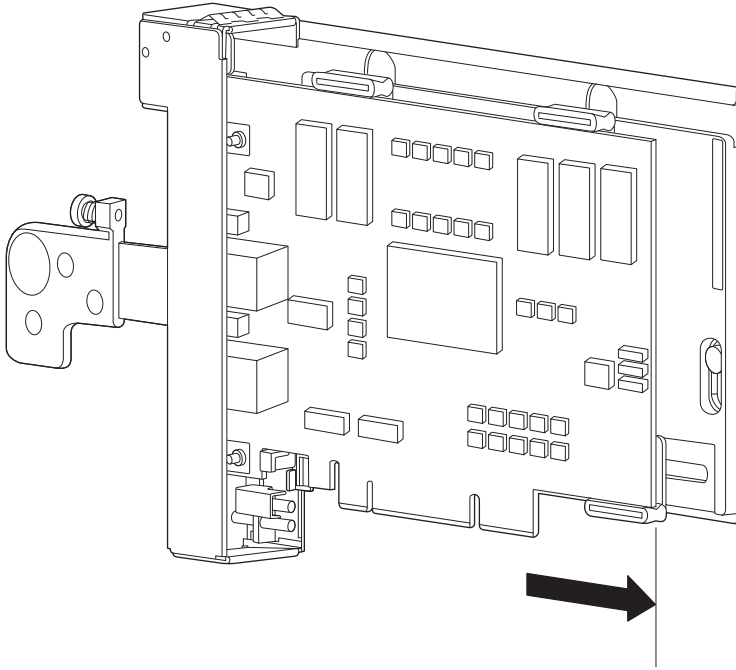


---

**注意** - 短いカードの場合、カセット下部のねじ位置をずらしてください。そのとき、つめがカードのできるだけ奥寄りになるようにセットしてください。

---

図 13-9 カセット下部のつめの位置



# ソフトウェアに関する情報

---

ここでは、次の内容について説明します。

- 「XCP に関する問題と回避方法」 (P.43)
- 「Solaris OS に関する問題と回避方法」 (P.45)
- 「ドキュメントの変更予定」 (P.62)

ここでは、特定のソフトウェアとファームウェアの問題とその回避方法について説明します。パッチを入手する方法、およびこれらの問題を修正するパッチが入手可能かどうかを確認する方法については、次のウェブサイトアクセスしてください。

<http://sunsolve.sun.com>

---

## XCP に関する問題と回避方法

表 1 に XCP の問題と実行可能な回避方法を示します。

表 1 XCP に関する問題と回避方法 (1 / 2)

ID	説明	回避方法
6723305	XSCF Web で、サマータイムが正しく表示されません。	回避方法はありません。showlogs(8) コマンドを使用して、サマータイムの時刻を確認してください。
6741770	SNMP トラップホストの設定を変更しても、setsnmp disable と setsnmp enable を実行するまで反映されません。	SNMP の設定を変更した場合は、以下のコマンドを実行してください。 XSCF> setsnmp disable XSCF> setsnmp enable
6756052	XSCF Web のパニックログがメッセージの先頭から表示されない場合があります。	出力の一部しか表示されていない場合は、XSCF シェルで showlogs パニックコマンドを実行してください。

表 1 XCP に関する問題と回避方法 (2 / 2)

ID	説明	回避方法
6757614	XSCF Web のネットワーク設定では、 <code>setnetwork -r</code> オプションに相当する機能がサポートされていません。また、ホスト名やドメイン名に <code>localhost</code> や <code>localdomain</code> を指定すると、「SessionID has expired」というエラーメッセージが出力されます。	XSCF シェルで <code>setnetwork -r</code> コマンドを実行してください。
6761674	OBP コマンド <code>probe-scsi-all</code> を初めて使用したとき、外部 SAS ポート経由で接続されているすべてのデバイスが表示されない場合があります。	<code>probe-scsi-all</code> コマンドを再実行してください。
6765466	DID15 よりも高いシングルドメイン権限を持つアカウントでは、定義された LSB に関連する情報が XSCF Web の [Domain Configuration] ページに表示できません。また、このような LSB に対して [XSB Config...] ボタンによる操作も実行できません。	XSCF シェルで <code>showdcl(8)</code> 、 <code>addboard(8)</code> 、 <code>deleteboard(8)</code> 、および <code>moveboard(8)</code> の各コマンドを使用してください。
6765468	設定されているタイムゾーンの略称が 3 文字でない場合、XSCF Web の [Error Log] ページにエラーログが表示されません。 また、XSCF Web の [Panic Log] ページおよび [IPL Message Log] ページのテーブルに、日付が「--」と表示されます。	XSCF シェルで <code>showlogs(8)</code> コマンドを使用してください。
6767612	PCI スロットの異常が検出された場合、監視メッセージログが登録されないことがあります。	回避方法はありません。 <code>showlogs error</code> コマンドまたは <code>fmdump</code> コマンドを使用して、PCI スロットの障害情報を確認してください。
6789066	設定されたタイムゾーンの略称が 8 文字より長い場合、 <code>showlogs</code> コマンドを実行するとセグメンテーションエラーが発生します。	回避方法はありません。
6778132	<code>replacefru(8)</code> コマンドを使用して XSCF ユニットの交換した場合、交換が失敗し、DB 同期化のタイムアウトエラーがログに記録されることがあります。	すべてのメインラインスイッチをいったん切断してから、再投入してください。 または、 <code>rebootxscf(8)</code> コマンドを使用して XSCF をリセットした直後に <code>replacefru(8)</code> コマンドを実行し、再度 XSCF ユニットの抜き差ししてください。 XSCF リセットから時間が経過している場合、 <code>replacefru(8)</code> コマンドが再度失敗することがあります。そのときは、 <code>rebootxscf(8)</code> コマンド、および以降のプロセスを再実行してください。

# Solaris OS に関する問題と回避方法

この項では、Solaris OS に関する問題について説明します。表 2、表 6、および表 3 に、Solaris OS で発生しうる問題を使用リリース別に示します。

## サポートされているリリースすべての Solaris OS に関する問題

サポートされているリリースすべての Solaris OS で発生しうる問題を、表 2 に示します。

表 2 サポートされているリリースすべての Solaris OS に関する問題と回避方法 (1 / 5)

CR ID	説明	回避方法
6440061	ドメインのコンソールに次のメッセージが表示される場合があります。 <code>ipsec_check_inbound_policy: Policy Failure for the incoming packet (not secure)</code>	このメッセージは無視して差し支えありません。
6449315	Solaris OS の <code>cfgadm(1M)</code> コマンドが、M8000/M9000 サーバ上のドメインから DVD ドライブを構成解除しません。	Volume Management Daemon ( <code>vold</code> ) を無効にしてから、 <code>cfgadm(1M)</code> コマンドを使用して DVD ドライブを構成解除してください。 <code>vold</code> を無効にするには、コマンド <code>/etc/init.d/volmgt stop</code> を実行してデーモンを停止します。デバイスを減設または増設してから、コマンド <code>/etc/init.d/volmgt start</code> を実行してデーモンを再起動します。
6459540	DAT72 内蔵テープドライブユニットがテープの処理中にタイムアウトすることがあります。また、デバイスがシステムに QIC ドライブとして識別されることもあります。	以下の定義を、 <code>/kernel/drv/st.conf</code> に追加してください。 <pre>tape-config-list= "SEAGATE DAT DAT72-000", "SEAGATE_DAT DAT72-000", "SEAGATE_DAT DAT72-000"; SEAGATE_DAT DAT72-000= 1,0x34,0,0x9639,4,0x00,0x8c,0x8c, 0x8c,3;</pre> SEAGATE DAT と DAT72-000 の間には半角スペースが 4 つ必要です。

表 2 サポートされているリリースすべての Solaris OS に関する問題と回避方法 (2 / 5)

CR ID	説明	回避方法
6522017	ZFS ファイルシステムを使用しているドメインは、DR を使用できません。	ZFS ARC の最大サイズを小さくしてください。詳細については、当社技術員にお問い合わせください。
6531036	boot net によるインストール後に、エラーメッセージ network initialization failed が繰り返し表示されます。	回避方法はありません。
6531668	中断状態で SP DR のパラレルホットプラグ操作を実行したときに、システムがハングします。	回避方法はありません。
6532215	ドメインのブート時に volfs や dscop サービスの起動が失敗することがあります。	サービスを再起動してください。この問題を事前に回避する場合は、以下のコマンドを実行してください。 # svccfg -s dscop setprop start/timeout_seconds=count: 300 # svccfg -s volfs setprop start/timeout_seconds=count: 300 # svcadm refresh dscop # svcadm refresh volfs
6535018	SPARC64 VII プロセッサを搭載した Solaris ドメインでは、スレッド数を 256 超の値に増やしても、Solaris カーネルの使用負荷が予想どおりに上がらないことがあります。	これはパッチ 137111-01 で修正済みです。 SPARC64 VII プロセッサを搭載した Solaris ドメインでは、ドメインを最大 256 スレッドに制限してください。
6565553, 6674266	DR deleteboard(8) および moveboard(8) 操作が失敗することがあります。 ドメインに表示されるメッセージの例を次に示します。 drmach: WARNING: Device driver failure: /pci dcs: <xxxx> config_change_state: Hardware specific failure: unconfigure SB1: Device driver failure: /pci	回避方法はありません。 DR 操作を再実行してください。
6572827	prtdiag -v コマンドで PCI バスのタイプが間違っていて出力されます。PCI-X リーフデバイスが「PCI」、レガシー PCI デバイスが「UNKN」と表示されます。	回避方法はありません。
6575970	DR と XSCF のフェイルオーバーが不整合です。	
6588555	カーネルメモリで DR 操作中に XSCF をリセットすると、ドメインがパニックすることがあります。	DR 操作の進行中は、XSCF リセットを起動しないでください。DR 操作が完了するのを待ってから、リセットを開始します。



表 2 サポートされているリリースすべての Solaris OS に関する問題と回避方法 (3 / 5)

CR ID	説明	回避方法
6588650	バックアップ XSCF への XSCF フェイルオーバーまたはバックアップ XSCF からの XSCF フェイルオーバーの後、システムの DR が不可能となる場合があります。	回避方法はありません。
6589644	addboard コマンドで SB が追加された後、XSCF の切り替えが発生したときに、コンソールが認識されなくなります。	コンソールを復旧させるには、次のキーを押します。 Ctrl-q (「Ctrl」キーと「q」キー)
6592302	DR 操作が失敗すると、メモリが一部未設定のままになります。	addboard -d コマンドを使用してボードをドメインに戻し、復旧することができます。
6619224	SPARC 64 VII プロセッサを搭載した Solaris ドメインでは、256 スレッド以上のシングルドメインが、一定の異常状態で長期間にわたってハングすることがあります。復旧時に、uptime コマンドは極端に高い負荷平均を示します。	これはパッチ 137111-03 で修正済みです。  SPARC 64 VII プロセッサを搭載した Solaris ドメインでは、シングル Solaris ドメインで 256 の仮想プロセッサのドメインサイズを超過しないようにしてください。つまり、シングルドメイン構成で最大 32 CPU になります (M8000 サーバの最大構成)。
6623226	Solaris コマンドの lockstat(1M) や dtrace lockstat provider で、システムパニックが発生することがあります。	これはパッチ 140336-01 で修正済みです。 [ 回避方法 ] Solaris の lockstat(1M) コマンドおよび dtrace lockstat provider を使用しないでください。
6625734	シングルドメイン環境で多数のプロセッサが存在するシステムでは、一定の負荷を伴う準最適パフォーマンスになることがあります。	プロセッサセットを使用して、アプリケーションプロセッサまたは LWP をプロセッサのグループにバインドしてください。詳細については、psrset(1M) の man page を参照してください。
6660168	ドメイン上で ubc.piowbeue-cpu エラーが発生すると Solaris Fault Management cpumem-diagnosis モジュールが失敗し、FMA サービスが停止することがあります。 これが発生すると、コンソールログに以下の例のように出力されます。	fmd サービスが停止した場合は、復旧させるために、ドメイン上で以下のコマンドを実行してください。 # svcadm clear fmd その後、cpumem-diagnosis を再起動します。 # fmadm restart cpumem-diagnosis

表 2 サポートされているリリースすべての Solaris OS に関する問題と回避方法 (4 / 5)

CR ID	説明	回避方法
	<p>SUNW-MSG-ID: FMD-8000-2K, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor            EVENT-TIME: Fri Apr 4 21:41:57 PDT 2008            PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: 2020642002, HOSTNAME: &lt;hostname&gt;            SOURCE: fmd-self-diagnosis, REV: 1.0            EVENT-ID: 6b2e15d7-aa65-6bcc-bcb1-cb03a7dd77e3            DESC: A Solaris Fault Manager component has experienced an error that required the module to be disabled.Refer to <a href="http://sun.com/msg/FMD-8000-2K">http://sun.com/msg/FMD-8000-2K</a> for more information.            AUTO-RESPONSE: The module has been disabled.Events destined for the module will be saved for manual diagnosis.            IMPACT: Automated diagnosis and response for subsequent events associated with this module will not occur.            REC-ACTION: Use <code>fmdump -v -u &lt;EVENT-ID&gt;</code> to locate the module.Use <code>fmadm reset &lt;module&gt;</code> to reset the module.</p>	
6668237	DIMM を交換しても、該当する DIMM の故障がドメインから消去されません。	コマンド <code>fmadm repair <i>fnri uuid</i></code> を使用して修復を記録してください。その後、コマンド <code>fmadm rotate</code> を使用して残りのイベントを消去できます。
6679370	<p>システムのブート中、ホットプラグによる PCI ボックスの追加中、または DR による FMEMA の操作中に、次のメッセージがコンソールに出力されることがあります。            SUNW-MSG-ID: SUN4-8000-75, TYPE: Fault, VER: 1, SEVERITY: Critical            ...            DESC:            A problem was detected in the PCIExpress subsystem.            Refer to <a href="http://sun.com/msg/SUN4-8000-75">http://sun.com/msg/SUN4-8000-75</a> for more information.            ...</p>	<p><code>/etc/system</code> に次の行を追加し、ドメインをリブートしてください。  <code>set pcie_expected_ce_mask = 0x2001</code></p>

表 2 サポートされているリリースすべての Solaris OS に関する問題と回避方法 (5 / 5)

CR ID	説明	回避方法
6680733	負荷が高い状態で、Sun Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP (QGC) および Sun Dual 10 GigE Fiber XFP Low Profile Adapter (XGF) NIC がパニックすることがあります。	これはパッチ 139570-01 で修正済みです。
6689757	単一の XFP 光トランシーバまたは正しく取り付けられていない XFP 光トランシーバで Sun Dual 10 GigE Fiber XFP Low Profile Adapter (XGF) を使用すると、次のエラーがコンソールに表示されることがあります。 The XFP optical transceiver is broken or missing.	これはパッチ 139570-01 で修正済みです。 [ 回避方法 ] 両方の XFP 光トランシーバが筐体にしっかりと装着されていることを確認してください。 INTEL と Sun の XFP 光トランシーバを同じアダプターに混在させないでください。 ポートに XFP 光トランシーバが含まれていない場合、またはポートに XFP 光トランシーバが含まれていても未使用の場合は、ifconfig コマンドでポートを精査しないでください。
6707628	Mx000 システムに関するスケジューラの決定が不均衡になる場合があります。 あるコア上に 2 つのスレッド (両方ともほぼ半分の速度で動作します) が存在し、同時に別のコアがアイドルになっていることがあります。 多くの OpenMP および類似のパラレルアプリケーションでは、アプリケーションのパフォーマンスが、最も遅いスレッドの速度に制限されます。 不均衡なスケジューリングは一般的ではありません (50 の決定に 1 つまたは 100 の決定に 1 つ程度になると考えられます)。ただし、128 のスレッドが動作している場合、アプリケーションには不均衡なスケジューリングイベントが 1 つ以上存在する可能性があります。	プロセッサセットを使用して、コア割り当てに対する不均衡なスレッドを防止してください。
6723202	raidctl コマンドは、M8000/9000 サーバでオンボードの SAS/LSI コントローラを使用するハードウェア RAID を作成するために使用できません。 raidctl コマンドは、ディスクまたはコントローラのステータスを表示するために使用できます。システムに搭載されたすべての PCI ホストバスアダプター (HBA) で使用可能です。	回避方法はありません。この問題は修正されません。
6745410	システムをブートしないようにする Kadb オプションが、ブートプログラムで無視されます。	kadb の代わりに kmdb を使用してください。

# Solaris 10 10/08 で修正された Solaris の問題

表 3 に、Solaris 10 10/08 OS で修正された問題を示します。Solaris 10 10/08 より前のサポートされているリリースでは、これらの問題が発生する可能性があります。

表 3 Solaris 10 10/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (1 / 3)

CR ID	説明	回避方法
6511374	エラーが多すぎてメモリバンクが無効になった場合は、ブート中にメモリ変換の警告メッセージが表示されることがあります。	これはパッチ 137137-09 で修正済みです。 [回避方法] システムのリブート後に、 <code>fmadm repair</code> コマンドを使用して、次回ブート時に問題が再現しないようにできます。
6533686	XSCF でシステムリソースが不足している場合、カーネルメモリを移動する <code>DR deleteboard</code> または <code>moveboard</code> 操作が、次に示す 1 つ以上のエラーで失敗することがあります。 <code>SCF busy</code> <code>DR parallel copy timeout</code> この問題が発生するのは、マルチドメインのホストである Quad-XSB 構成のシステムボードだけです。	これはパッチ 138397-01 で修正済みです。 後で、DR 操作を再実行してください。
6535018	SPARC64 VII プロセッサを搭載した Solaris ドメインでは、スレッド数を 256 超の値に増やしても、Solaris カーネルの使用負荷が予想どおりに上がらないことがあります。	これはパッチ 137111-01 で修正済みです。 [回避方法] SPARC64 VII プロセッサを搭載した Solaris ドメインでは、ドメインを最大 256 スレッドに制限してください。
6556742	DR 時に <code>DiskSuite</code> が <code>metadb</code> を読めない場合、システムがパニックします。このバグの影響を受けるカードは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>SG-XPCIE2FC-QF4, 4Gb PCI-e Dual-Port Fiber Channel HBA</li><li>SG-XPCIE1FC-QF4, 4Gb PCI-e Single-Port Fiber Channel HBA</li><li>SG-XPCI2FC-QF4, 4Gb PCI-X Dual-Port Fiber Channel HBA</li><li>SG-XPCI1FC-QF4, 4Gb PCI-X Single-Port Fiber Channel HBA</li></ul>	<code>metadb</code> の複製コピーに別のホストバスアダプターを介してアクセス可能であれば、パニックは回避できます。

表 3 Solaris 10 10/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (2 / 3)

CR ID	説明	回避方法
6589833	<p>SAP プロセスが Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fiber Channel PCI-E HBA カード (SG-XPCIE2FC-QF4) に接続された記憶装置にアクセスしようとしているときにこのカードを追加しようとすると、DR addboard コマンドによりシステムがハングするおそれがあります。ネットワークトラフィックが多い状況で以下のカードを使用していると、システムがハングする危険が大きくなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP</li> <li>• X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter</li> </ul>	<p>回避方法はありません。</p>
6614737	<p>次のいずれかの状況が存在する場合、DR deleteboard(8) および moveboard(8) 操作がハングすることがあります。</p> <p>DIMM が縮退している。</p> <p>ドメインに含まれる各システムボードのメモリサイズがそれぞれ異なっている。</p>	<p>Solaris 10 5/08 またはそれより前の場合、これはパッチ 137111-01 で修正済みです。</p> <p>次のいずれかの状況が存在する場合、DR 操作を実行しないようにしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 縮退メモリ - システムに縮退メモリが含まれているかどうかを確認するには、XSCF コマンド showstatus を使用します。出力例については、「システムメモリの識別」(P.19) を参照してください。</li> <li>• 異なるメモリサイズ - ドメインに含まれる各システムボードのメモリサイズがそれぞれ異なっているかどうかを確認するには、XSCF コマンド showdevices またはドメインで prttdiag コマンドを使用してメモリサイズのリストを表示します。出力例については、「システムメモリの識別」(P.19) を参照してください。</li> </ul> <p>DR コマンドがハングした場合は、復旧させるためにドメインをリブートしてください。</p>

表 3 Solaris 10 10/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (3 / 3)

CR ID	説明	回避方法
6632549	ドメインでの <code>fmd service</code> が、DR 操作後に保守モードの開始に失敗することがあります。	これはパッチ 138050-01 で修正済みです。  ドメインで次のコマンドを実行します。 <code># svcadm clear fmd</code>
6660197	次のいずれかの状況が存在する場合、DR によってドメインがハングすることがあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ドメインに 256 以上の CPU が含まれている。</li> <li>メモリエラーが発生し、DIMM が縮退している。</li> </ul>	これはパッチ 138397-01 で修正済みです。  1. 次のパラメータをシステム仕様ファイル ( <code>/etc/system</code> ) に設定する必要があります。 <code>set drmach:drmach_disable_mcopy = 1</code> 2. ドメインをリブートしてください。
6720261	ドメインが Solaris 10 5/08 OS を実行している場合、通常の操作中にシステムがパニックまたはトラップすることがあります。	これはパッチ 137137-09 で修正済みです。 [ 回避方法 ] 次のパラメータをシステム仕様ファイル ( <code>/etc/system</code> ) に設定する必要があります。 <code>set heaplp_use_stlb=0</code> その後、ドメインをリブートしてください。

# Solaris 10 5/08 で修正された Solaris の問題

表 6 に、Solaris 10 5/08 OS で修正された問題を示します。Solaris 10 5/08 より前のサポートされているリリースでは、これらの問題が発生する可能性があります。

表 6 Solaris 10 5/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (1 / 4)

CR ID	説明	回避方法
5076574	大規模な M9000/M8000 ドメインでは、PCIe エラーが発生すると障害診断が無効になるおそれがあります。	次の行を含むファイル /etc/fm/fmd/fmd.conf を作成してください。 setprop client.buflim 40m setprop client.memlim 40m
6348554	以下のカードで <code>cfgadm -c disconnect</code> コマンドを使用すると、コマンドがハングアップするおそれがあります。 <ul style="list-style-type: none"><li>• SG-XPCIE2FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fiber Channel PCI-E HBA</li><li>• SG-XPCIE1FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fiber Channel PCI-E HBA</li><li>• SG-XPCI2FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fiber Channel PCI-X HBA</li><li>• SG-XPCI1FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fiber Channel PCI-X HBA</li></ul>	影響のあるカードでは、 <code>cfgadm -c disconnect</code> 操作を実行しないでください。
6472153	Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 sun4u サーバ以外のサーバ上に Solaris フラッシュアーカイブを作成し、それを Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 sun4u サーバにインストールすると、コンソールの TTY フラグが正しく設定されません。このため、負荷がかかっているときにコンソールに文字が表示されなくなる場合があります。	Solaris 10 8/07 またはそれより前の場合、これはパッチ 137046-01 で修正済みです。  Solaris フラッシュアーカイブから Solaris OS をインストールした直後に Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバに telnet で入り、コンソールの TTY フラグを以下のようにリセットします。 <pre># sttydefs -r console # sttydefs -a console -i "9600 hupcl opost onlcr crtscs" -f "9600"</pre>

この作業は 1 回だけ実行してください。

表 6 Solaris 10 5/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (2 / 4)

CR ID	説明	回避方法
6505921	システム PCIe バスコントローラの修正可能なエラーによって、無効な障害が発生します。	Solaris 10 8/07 またはそれより前の場合、これは 120011-14 および 125369-05 で修正済みです。  次の行を含むファイル /etc/fm/fmd/fmd.conf を作成してください。 setprop client.buflim 40m setprop client.memlim 40m
6522433	リポート後の CPU 障害によって、fmdump が正しいマザーボードを識別できないことがあります。	Solaris 10 8/07 またはそれより前の場合、これはパッチ 127127-11 で修正済みです。 XSCF のシステムステータスを確認してください。
6527811	XSCF 上で showhardconf(8) コマンドを使用すると、PCI ホットプラグを使用して PCI ボックスが設定されていても、PCI ボックスにインストールされている PCI カード情報を表示することができません。	Solaris 10 8/07 またはそれより前の場合、これはパッチ 128346-01 で修正済みです。  回避方法はありません。PCI ボックス内の各 PCI カードが PCI ホットプラグを使用して設定されていれば、PCI カード情報は正しく表示されます。
6536564	showlogs(8) および showstatus(8) コマンドが、別の I/O コンポーネントを報告することがあります。	Solaris 10 8/07 またはそれより前の場合、これはパッチ 125369-05 で修正済みです。  この問題を事前に回避するには、ドメインで以下のコマンドを実行してください。 # cd /usr/platform/SUNW,SPARCEnterprise/ lib/fm/topo/plugins # mv ioboard.so ioboard.so.orig # svcadm restart fmd  次のメッセージが表示された場合は、当社技術員までご連絡ください。 SUNW-MSG-ID: SUNOS-8000-1L, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Sun May 6 18:22:24 PDT 2007 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: BE80601007, HOSTNAME: sparc



表 6 Solaris 10 5/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (3 / 4)

CR ID	説明	回避方法
6545143	<p>ユーザースタックアドレスの TLB ミスのトラップ処理中にシステムパニックがまれに発生することがあります。この問題は、フラッシュウィンドウトラップ (ta 3) を実行するユーザプロセスと同時に、ユーザースタックの対応付けが解除される場合に発生する可能性があります。パニックメッセージには、次の文字列が含まれています。</p> <pre>bad kernel MMU trap at TL 2</pre>	<p>Solaris 10 8/07 またはそれより前の場合、これはパッチ 127111-08 で修正済みです。</p> <p>回避方法はありません。</p>
6545685	<p>電源投入自己テスト (POST) で修正可能なメモリエラー (CE) が検出された場合、ドメインは誤って 4DIMM または 8DIMM に縮退することがあります。</p>	<p>Solaris 10 8/07 またはそれより前の場合、これはパッチ 127111-08 で修正済みです。</p> <p>/etc/system で次のように設定し、使用されるメモリ巡回タイムアウト値を増やしてから、システムをリブートします。</p> <pre>set mc-opl:mc_max_rewrite_loop = 20000</pre>
6546188	<p>以下のカード上でホットプラグ (cfgadm) および DR 操作 (addboard および deleteboard) を実行すると、システムがパニックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP</li> <li>• X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter</li> </ul>	<p>Solaris 10 8/07 の場合、これはパッチ 127741-01 で修正済みです。</p> <p>回避方法はありません。</p>
6551356	<p>未設定のカードを設定するためにホットプラグ (cfgadm) を実行すると、システムがパニックします。システムがパニックする直前に、「警告: PCI 拡張 ROM にアクセスできません」というメッセージがコンソール上に表示されます。次のカードがこのバグの影響を受けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP</li> <li>• X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter</li> </ul>	<p>Solaris 10 8/07 の場合、これはパッチ 127741-01 で修正済みです。</p> <p><b>注</b> - I/O カードを取り外すために <code>cfgadm -c unconfigure</code> を使用しないでください。カードを完全に取り外すには、<code>cfgadm -c disconnect</code> を使用します。10 秒以上待ってから、<code>cfgadm -c configure</code> コマンドを使用してカードの設定をドメインに戻すことができます。</p>
6559504	<p>以下のカードを使用すると、<code>nxge: NOTICE: nxge_ipp_eccue_valid_check: rd_ptr = nnn wr_ptr = nnn</code> という形式のメッセージがコンソールに表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP</li> <li>• X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter</li> </ul>	<p>これらのメッセージは無視して差し支えありません。</p>

表 6 Solaris 10 5/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (4 / 4)

CR ID	説明	回避方法
6563785	<p>以下のカードでホットプラグ操作を行った場合、カードを切断してその直後に再接続すると、ホットプラグ操作が失敗することがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• SG-XPCIE2SCSIU320Z Sun StorageTek PCI-E Dual-Port Ultra320 SCSI HBA</li> <li>• SGXPCI2SCSILM320-Z Sun StorageTek PCI Dual-Port Ultra320 SCSI HBA</li> </ul>	<p>カードを切断した後、数秒待つてから再接続してください。</p>
6564934	<p>以下のネットワークカードを使用しているときにカーネルメモリを搭載したボードに対して DR deleteboard 操作を実行すると、接続が切れます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP</li> <li>• X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter</li> </ul>	<p>Solaris 10 8/07 の場合、これはパッチ 127741-01 で修正済みです。</p> <p>DR 操作が完了してから、影響を受けたネットワークインターフェースを再設定してください。基本的なネットワーク設定手順についての詳細は、<code>ifconfig</code> の man page を参照してください。</p>
6568417	<p>CPU DR deleteboard 操作が正常に終了した後、次のネットワークインターフェースが使用されていると、システムがパニックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP</li> <li>• X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter</li> </ul>	<p>Solaris 10 8/07 またはそれより前の場合、これはパッチ 127111-02 で修正済みです。</p> <p><code>/etc/system</code> に次の行を追加し、システムをリブートしてください。</p> <pre>set ip:ip_soft_rings_cnt=0</pre>
6571370	<p>実験環境でストレス試験を実行した結果、以下のカードでデータ破壊が発生しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP</li> <li>• X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter</li> </ul>	<p>Solaris 10 8/07 の場合、これはパッチ 127741-01 で修正済みです。</p> <p><code>/etc/system</code> に次の行を追加し、システムをリブートしてください。</p> <pre>set nxge:nxge_rx_threshold_hi=0</pre>
6584984	<p><code>-w</code> を指定して <code>busstat(1M)</code> コマンドを実行すると、ドメインがリブートされることがあります。</p>	<p>回避方法はありません。 <code>-w</code> オプションを指定して <code>busstat(1M)</code> コマンドを <code>pcmu_p</code> で実行しないでください。</p>
6589546	<p><code>prtdiag</code> は、次のカードのすべての IO デバイスを表示するわけではありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• SG-XPCIE2FC-EM4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fiber Channel PCI-E HBA</li> <li>• SG-XPCIE1FC-EM4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fiber Channel PCI-E HBA</li> </ul>	<p>Solaris 10 8/07 またはそれより前の場合、これはパッチ 127127-11 で修正済みです。</p> <p>完全出力には <code>prtdiag -v</code> を使用してください。</p>

## Solaris 10 8/07 で修正された Solaris の問題

表 7 に、Solaris 10 8/07 OS で修正された問題を示します。Solaris 10 11/06 では、これらの問題が発生する可能性があります。



**注意** - ICR ID #6534471: カーネルメモリ内の大きなページが適切に処理されないと、パニックが不規則に発生するおそれがあります。CR ID #6534471 の回避方法を実行するか、またはパッチが入手可能かどうかを確認し、パッチをただちにインストールしてください。このバグは 125100-06 および Solaris 10 8/07 で修正済みです。

表 7 Solaris 10 8/07 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (1 / 5)

CR ID	説明	回避方法
6303418	シングルドメインで 11 以上のフル実装システムボードを備える M9000 サーバは、負荷が高い状況でハングすることがあります。	CPU スレッドの数が 170 を超えないようにしてください。  Solaris <code>psradm</code> コマンドを使用して過剰な CPU スレッドを無効にして、CPU スレッドの数を CPU コアあたり 1 つに制限してください。たとえば、奇数の CPU スレッドをすべて無効にします。
6416224	単一の NIC カードの接続数が 5,000 を超えると、システムパフォーマンスが低下することがあります。	Solaris 10 11/06 の場合、これはパッチ 120011-08 で修正済みです。  複数の NIC カードを使用して、ネットワーク接続を分割してください。
6441349	I/O エラーでシステムがハングすることがあります。	Solaris 10 11/06 の場合、これはパッチ 120011-07 で修正済みです。  回避方法はありません。
6485555	レースコンディションにより、オンボードの Gigabit Ethernet NVRAM に障害が発生します。このレースコンディションが発生する可能性は、非常に低いものです。	Solaris 10 11/06 の場合、これはパッチ 120011-08 で修正済みです。  回避方法はありません。

表 7 Solaris 10 8/07 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (2 / 5)

CR ID	説明	回避方法
6496337	<p>修正不能なエラー (UE) パニックの発生後、「cpumem-diagnosis」モジュールのロードが失敗することがあります。システムは正しく機能しますが、このモジュールを使用する FMA によって通常は自動診断されるイベントが手動診断を要求します。</p> <p>例：            SUNW-MSG-ID: FMD-8000-2K, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor            EVENT-TIME: Thu Feb 15 15:46:57 JST 2007            PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: BE80601007, HOSTNAME: col2-ffem7-d0</p>	<p>Solaris 10 11/06 の場合、これはパッチ 125369-05 で修正済みです。</p> <p>問題がすでに発生している場合：            回避方法：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. cpumemdiagnosis ファイルを削除してください。  <pre># rm /var/fm/fmd/ckpt/cpumemdiagnosis/cpumem-diagnosis</pre></li> <li>2. fmd サービスを再起動してください。  <pre># svcadm restart fmd</pre></li> </ol> <p>この問題を事前に回避するには、「rm -f /var/fm/fmd/ckpt/cpumemdiagnosis/cpumem-diagnosis」を /lib/svc/method/svc-dumpadm ファイルに、次のように追加してください。  <pre># savedev=none rm -f /var/fm/fmd/ckpt/cpumemdiagnosis/cpumem-diagnosis #</pre></p>
6495303	<p>PCIe Dual-Port Ultra320 SCSI コントローラカード (SG-(X)PCIE2SCSIU320Z) を Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバの IOU スロット 1 で使用すると、システムパニックが発生することがあります。</p>	<p>このカードを IOU スロット 1 で使用しないでください。</p>
6498283	<p>ドメインで psradm 操作の実行中に、DR コマンド deleteboard を使用すると、システムパニックが発生することがあります。</p>	<p>回避方法はありません。</p>
6499304	<p>予期しないメッセージがコンソールに表示され、修正可能なエラー (CE) が多数発生しても CPU はオフラインになりません。</p> <p>例：            SUNW-MSG-ID: FMD-8000-11, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor            EVENT-TIME: Fri Feb 2 18:31:07 JST 2007            PLATFORM: SPARC-Enterprise, CSN: BE80601035, HOSTNAME: FF2-35-0</p>	<p>Solaris 10 11/06 の場合、これはパッチ 125369-05 で修正済みです。</p> <p>XSCF の CPU ステータスを確認してください。</p>

表 7 Solaris 10 8/07 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (3 / 5)

CR ID	説明	回避方法
6502204	<p>CPU UE パニックの発生後のブート時に、予期しないエラーメッセージがコンソールに表示されることがあります。</p> <p>例：            SUNW-MSG-ID: FMD-8000-11, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor            EVENT-TIME: Tue Jan 9 20:45:08 JST 2007            PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise,            CSN: 2030636002, HOSTNAME: P2-DC1-16-d0</p>	<p>Solaris 10 11/06 の場合、これはパッチ 125369-05 で修正済みです。</p> <p>予期しないメッセージが表示された場合は、<code>showdomainstatus(8)</code> コマンドを使用して、XSCF のシステムステータスを確認してください。</p>
6502750	<p>増設または減設されたホットプラグの PCI カードが通知メッセージを出力しないことがあります。</p>	<p>Solaris 10 11/06 の場合、これはパッチ 120011-08 で修正済みです。</p> <p>回避方法はありません。</p>
6508432	<p>PCIe の偽の修正可能なエラーが FMA エラーログに多数記録されることがあります。</p>	<p>Solaris 10 11/06 の場合、これはパッチ 120011-08 で修正済みです。</p> <p>これらのエラーをマスクするには、次のエントリを <code>/etc/system</code> に追加し、システムをリブートしてください。</p> <pre>set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x2001</pre>
6508434	<p>PCI ホットプラグを使用して PCI-X カードを増設または交換すると、ドメインがパニックすることがあります。</p>	<p>Solaris 10 11/06 の場合、これはパッチ 120011-08 で修正済みです。</p> <p>PCI ホットプラグを使用して、異なるタイプの PCI-X カードを同じ PCI スロットに増設しないでください。</p>
6510861	<p>PCIe Dual-Port Ultra320 SCSI コントローラカード (SG-(X)PCIE2SCSIU320Z) を使用しているとき、PCIe の修正可能なエラーによって Solaris のパニックが発生します。</p>	<p>Solaris 10 11/06 の場合、これはパッチ 120011-08 で修正済みです。</p> <p>この問題を回避するには、次のエントリを <code>/etc/system</code> に追加してください。</p> <pre>set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x31c1</pre>
6520990	<p>ドメインがリブートしたとき、SCF が同じ物理ボードを共有している他のドメインにサービスを提供できないことがあります。DR 操作がデフォルトのタイムアウト時間を超え、パニックが発生する可能性があります。</p>	<p>次の記述を <code>/etc/system</code> に設定して DR タイムアウト時間を大きくし、システムをリブートします。</p> <pre>set drmach:fmem_timeout = 30</pre>

表 7 Solaris 10 8/07 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (4 / 5)

CR ID	説明	回避方法
6527781	2つのドメイン間でDVD/DATドライブを移動中に、 <code>cfgadm</code> コマンドが失敗します。	回避方法はありません。DVD/ テープドライブユニットを再構成するには、問題が発生しているドメインから <code>reboot -r</code> を実行してください。
6530178	DR <code>addboard</code> コマンドがハングすることがあります。問題が検出されると、それ以上のDR操作はブロックされます。復旧にはドメインのリブートが必要です。	Solaris 10 11/06 の場合、これはパッチ 120011-07 で修正済みです。  回避方法はありません。
6530288	<code>cfgadm(1M)</code> コマンドが <code>Ap_Id</code> フォーマットを正しく表示しないことがあります。	Solaris 10 11/06 の場合、これはパッチ 120011-07 で修正済みです。  回避方法はありません。
6534471	通常の操作中に、システムがパニックまたはトランプすることがあります。	このバグは Solaris 10 8/07 で修正済みです。このバグに対するパッチが入手可能かどうかを確認してください。  パッチが入手可能でない場合は、カーネルの大きなページの sTLB プログラミングを無効にしてください。/etc/system ファイルで、 <code>heaplp_use_stlb</code> 変数を 0 に変更してください。 <code>set heaplp_use_stlb=0</code>
6535564	DR によって追加された XSB で、PCI スロット #0、#1、または PCI ボックスに対する PCI ホットプラグが失敗することがあります。	Solaris 10 11/06 の場合、これはパッチ 120011-08 で修正済みです。  XSB の PCI カードを増設または減設する必要がある場合は、PCI ホットプラグの代わりに DR を使用してください。

表 7 Solaris 10 8/07 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (5 / 5)

CR ID	説明	回避方法
6539084	ドメインに Sun Quad GbE UTP x8 PCIe (X4447A-Z) カードが存在する場合、リブート中にドメインのパニックがまれに発生することがあります。	これはパッチ 125670-01 で修正済みです。
6539909	boot net install コマンドを使用して Solaris OS をインストールしているとき、ネットワークアクセスに次の I/O カードが使用されません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• X4447A-Z/X4447A-Z, PCIe Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP</li> <li>• X1027A-Z/X1027A-Z, PCIe Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP</li> </ul>	代替タイプのネットワークカードまたはオンボードのネットワークデバイスを使用し、ネットワーク経由で Solaris OS をインストールしてください。
6542632	ドライバ接続に失敗すると、PCIe モジュールにメモリアリークが発生します。	Solaris 10 11/06 の場合、これはパッチ 120011-09 で修正済みです。  回避方法はありません。

# ドキュメントの変更予定

この項では、ドキュメントセットが出版された後に知られるようになった最新情報を示します。

『*Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF リファレンスマニュアル*』に関する変更内容は、このマニュアルだけに適用されます。XSCF の man page の内容に誤りはありません。

表 1 に、ドキュメントの変更予定を示します。

表 1 ドキュメントの変更予定 (1 / 2)

ドキュメント	変更対象	変更内容
SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/ M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド	P. 2-26	「setloginlock(8) コマンドで、ロックアウト時間に 0 分を指定してロックアウト機能を無効にする場合、任意のユーザーアカウントで最初のログインに成功すると、ロックアウト機能は無効になります。無効設定後、最初のログインに失敗すると、ロックアウト機能は無効になりません。ロックアウト機能を無効にするには、再度、0 分を設定しなければなりません。」という記述は、次の内容に変更されます。 「setloginlockout コマンドで -s, 0 を指定すると、アカウントロックアウトは無効になります。 ロックアウトを無効に設定した場合、ユーザーは何回でもログインを試みることができるようになります。ロックアウト時間が経過する前にロックアウトされたユーザーアカウントにアクセスする必要がある場合は、システム管理者にロックアウト機能を無効にしてもらい、ログインが許可された後、ロックアウト時間を設定してロックアウト機能を再度有効にしてください。」
SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/ M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド	P. 3-3	「ドメインコンソールは強制ログアウトしません。」という記述は、次の内容に変更されます。 「ドメインからログアウトしないで、ドメインコンソールから XSCF シェルコンソールに戻った場合は、自動的にドメインからログアウトされます。ドメインコンソールのセッションタイムアウト時間を設定する場合は、Solaris OS のマニュアルを参照してください。」
Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000 /M9000 サーバ XSCF リファ レンスマニュアル		新しいコマンドである setloginlockout(8) および showloginlockout(8) は、このリファレンスマニュアルに記載されません。 詳細については、それぞれの man page を参照してください。



表1 ドキュメントの変更予定 (2 / 2)

ドキュメント	変更対象	変更内容
<i>Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000 /M9000 サーバ XSCF リファレンスマニュアル</i>	setssh(8) コマンド	次の新しいオプションは、このマニュアルに記載されません。 -m dscp=mode 詳細については、setssh の man page を参照してください。
<i>Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000 /M9000 サーバ XSCF リファレンスマニュアル</i>	showenvironment(8) コマンド	-power オプションは、このマニュアルに記載されません。 詳細については、showenvironment の man page を参照してください。
<i>Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000 /M9000 サーバ XSCF リファレンスマニュアル</i>	showssh(8) コマンド	現在の SSH 設定の表示に関する説明は、このマニュアルに記載されません。 詳細については、showssh の man page を参照してください。
<i>Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000 /M9000 サーバ XSCF リファレンスマニュアル</i>	traceroute(8) コマンド	「ユーザー権限」内の以下の記述は削除されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>DSCP アドレスに対して実行する場合 fieldeng</li> </ul> 「オペランド」内の記述に、以下の内容が追加されません。 DSCP アドレスを指定した場合はエラーとなります。

